

3. モニタリング調査結果報告

3-3. 希少個体群保護林（32箇所）

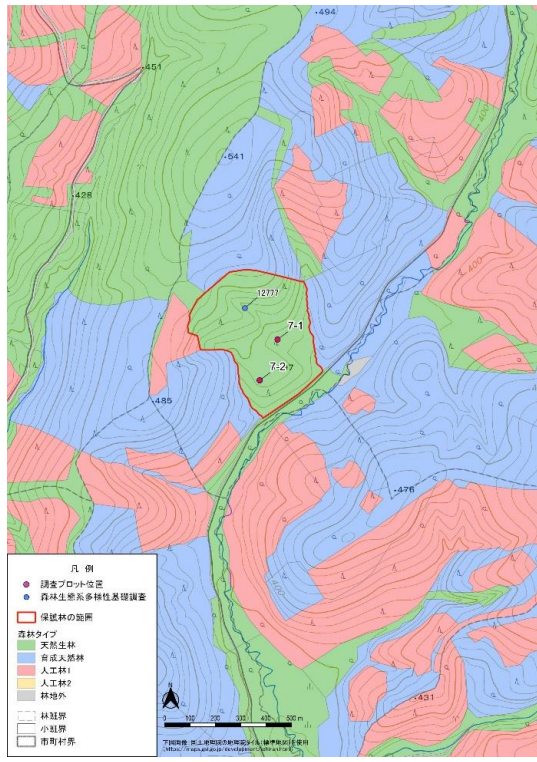
3-3.希少個体群保護林 (1/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
6	30901	前珊瑚エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (27.51ha)	エゾマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・一部で風倒木が確認されたが、林況に大きな変化はなかった。 ・エゾマツの天然更新はやや少なく、このことへの留意が必要である。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
7	30902	然別アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (20.00ha)	アカエゾマツ	H30	・資料調査 ・森林概況調査 (2箇所) ・森林生態系多様性基礎調査 (1箇所)	・一部で風倒木が確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。 ・アカエゾマツの大径木及び天然更新も確認された。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
8	30903	風連トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (7.9ha)	トドマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・風倒木によるギャップが確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。 ・トドマツの更新木は多数確認されたことから天然更新は順調であった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
9	30904	朝日オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林 (4.41ha)	オオバボダイジュ	H30	・森林詳細調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。 ・オオバボダイジュの天然更新も良好であり、概ね健全な、更新も期待できる林分である。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
10	30905	朝日ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林 (15.86ha)	ウダイカンバ、ミズナラ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・ミズナラの生育は健全であったが、ウダイカンバは衰弱木が多く枯死木も散見され、天然更新はみられなかった。 ・自然遷移の一環と考えられるが、ウダイカンバの生育状況には留意が必要である。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
11	30906	上土別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林 (9.81ha)	オオバボダイジュ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はなく、高木層のオオバボダイジュは健全な状態であった。 ・全体として天然更新の状況は良好であった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

7 然別アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)、森林生態系多様性基礎調査(1箇所)



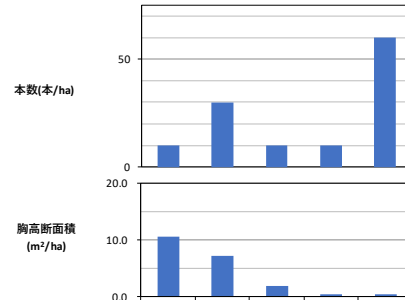
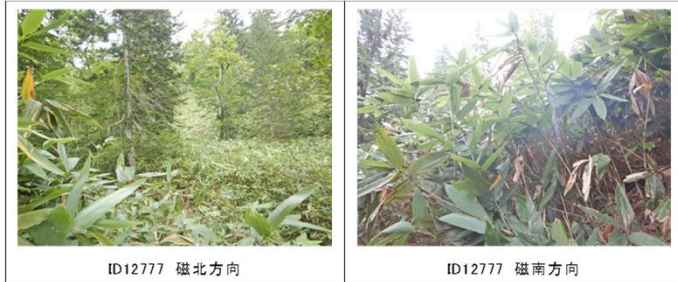
保護林名		然別アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		アカエゾマツ			
プロットNo.	7-1	7-2			
(区)	30902-1	30902-2			
調査日	2018/6/18	2023/6/7	2018/6/18	2023/6/7	
標高	395m		395m		
斜面方位・傾斜(平均)	SE 6°		SW 11°		
プロット情報	山腹巻斜面		山腹合斜面		
場所地形	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	
【主】主要構成樹種	20m以上	18~28m	20m以上	15~30m	
【高】樹高	-	50%	-	70%	
【高】樹比率	30cm以上	16~72cm	30cm以上	18~83cm	
【高】DBH	アカエゾマツ、ナナカマド	10~20m	10~20m	11~14m	
【主】主要構成樹種	-	20%	-	30%	
【高】樹高	10~20cm	8~14cm	10cm未満	9~12cm	
【高】DBH	オオカメノキ	オオカメノキ	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ	
【主】主要構成樹種	1~3m	2~4m	1~3m	2~6m	
【高】樹高	-	20%	-	10%	
【高】DBH	5cm未満	2~4cm	5cm未満	2~5cm	
【高】DBH	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	アカエゾマツ	
最大樹高樹種	28.1m	-	30.0m	-	
最大直径樹種	アカエゾマツ	-	スズナラ	-	
直径	71.8cm	-	78.8cm	-	
保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	80%以上	20~30%	
気象害	-	-	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	真	-	痕跡
その他痕跡	-	-	-	-	-
痕跡の程度	-	軽微	-	軽微	-
痕跡のコメント	-	-	-	-	-
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	
樹高	90%	90%	90%	90%	
樹比率	20m以上	0.1~2.4m	2.0m以上	0.1~2.3m	
天然更新状況	保護対象種の発生・天然更新がある	保護対象種、少ない更新がある	保護対象種の発生・天然更新がある	保護対象種、少ない更新がある	
保護林の状況	-	アカエゾマツのほば純林で健全であった。最大径木以下の樹高は少ないが、アカエゾマツをはじめ天然更新は普通に見られる。	-	健全な林分であった。アカエゾマツは普通に見られ、天然更新は確認されている。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:濃緑化 オ:自然擾乱 カ:その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
特になし					
状況写真					

プロット7-1

プロット7-2

項目	プロット7-1			比較結果等	プロット7-2		
	H23	R5			H23	R5	比較結果等
磁北方向				大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁東方向				大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁南方向				大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁西方向				大きな変化はない。			大きな変化はない。
天頂				大きな変化はない。			大きな変化はない。

森林生態系多様性基礎調査 ID12777



確認された影響[特になし]

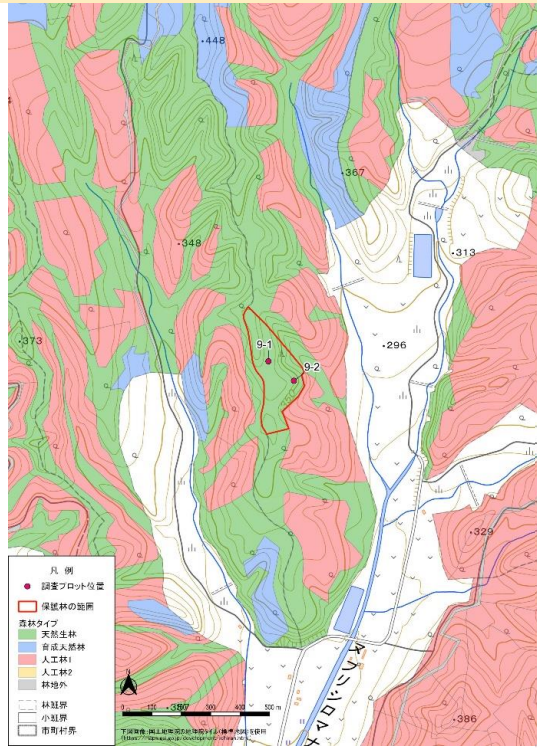
- 一部で風倒木が確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
- アカエゾマツの大径木及び天然更新も確認され、その他トドマツや広葉樹の天然更新は良好であり、概ね健全な林分である。
- 引き続き、巡視等のモニタリングにより経過を観察していく。

ID	優占種	発達段階	高木層		亜高木層		施業形跡	被害情報等
			高さ(m)	植被率	高さ(m)	植被率		
12777	ミスナラ	天然更新 老齢	20 ~ 37	30%	10 ~ 20	10%	なし	

9 朝日オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林

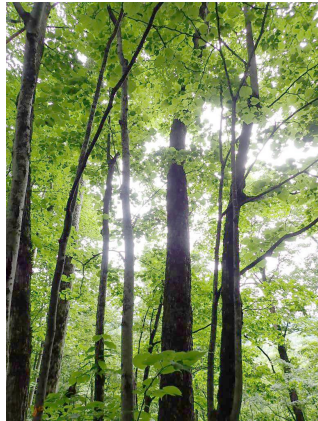
実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

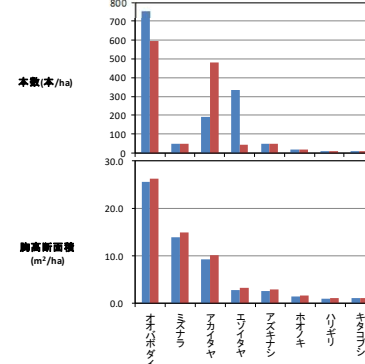
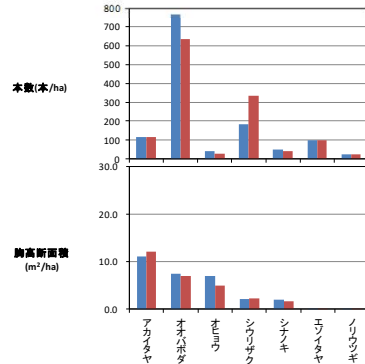


プロット9-1			プロット9-2				
項目	H30	R6	比較結果等	項目	H30	R6	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。	磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。	磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。	磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。	磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。	天頂			大きな変化はない。

保護林名	朝日オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林			
	オオバボダイジュ		山鹿平栗科園	
保護対象種	オオバボダイジュ			
プロットNo.	8-1	8-2	30904-1	30904-2
調査日	2018/7/18	2023/7/19	2018/7/18	2023/7/19
標高	389m	369m		
傾斜方位、傾斜率	E 32°		E 34°	
局所地形	山鹿平栗科園		山鹿平栗科園	
【高】主要構成樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ、アカイタヤ	オオバボダイジュ、アカイタヤ
【高】樹高	15~22m	15~24m	15~25m	17~24m
【高】種被率	70%	70%	80%	80%
【高】DBH	20~105cm	22~108cm	20~84cm	24~83cm
【中】主要構成樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ
【中】樹高	5~11m	7~13m	6~14m	6~16m
【中】種被率	40%	40%	40%	40%
【中】DBH	8~20cm	9~21cm	10~20cm	7~20cm
【低】主要構成樹種	オオバボダイジュ、アカイタヤ	アカイタヤ、シクリザクラ	オオバボダイジュ、シクリザクラ	オオバボダイジュ、シクリザクラ
【低】樹高	1~5m	2~5m	1~5m	2~7m
【低】種被率	20%	20%	30%	10%
【低】DBH	5cm未満	2~5cm	5cm未満	2~8cm
最大樹高樹種	オオバボダイジュ	オオバボダイジュ	アカイタヤ	アカイタヤ
樹高	22.5m	24.1m	24.4m	25.3m
最大直径樹種	ミズナラ	ミズナラ	アカイタヤ	アカイタヤ
直径	105.6cm	109.4cm	84.3cm	83.1cm
保護対象種の本数割合	50~80%	50~80%	50~80%	80~100%
気象害	-	-	-	-
病虫害	-	-	-	-
気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	食痕 小	食痕 軽微	食痕 -	食痕 -
痕跡のコメント	シカの下層植生食痕あり	シカのオシロウ剥皮あり	シカの下層植生食痕あり	シカの下層植生食痕あり
林床植生	ササ類主体 （主体は80%以上） 混生する植物種 種被率 80% 樹高 0.5~1.5m	ササ類主体 クマイザサ クマイザサ 80% 0.1~1.2m	ササ類主体 クマイザサ クマイザサ 70% 0.5~1.5m	ササ類主体 クマイザサ クマイザサ 80% 0.1~1.4m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種、普通更新がある	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種、普通更新がある
保護林の状況	オオバボダイジュは萌芽は多く、低木層から高木層まで各層層に分布する。	オオバボダイジュは萌芽は多く、低木層から高木層まで各層層に分布する。シクリザクラの種数が多く見られる。	オオバボダイジュは萌芽は多く、低木層から高木層まで各層層に分布する。	オオバボダイジュは各層層に見られ、天然更新も盛んである。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
A 野生鳥獣	イ 病虫害	ウ 外來種	エ 温暖化	オ 自然擾乱
カ その他	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う	引き継ぎモニタリングによる経過観察を行う
一 特になし				
林況写真				



オオバボダイジュの高木

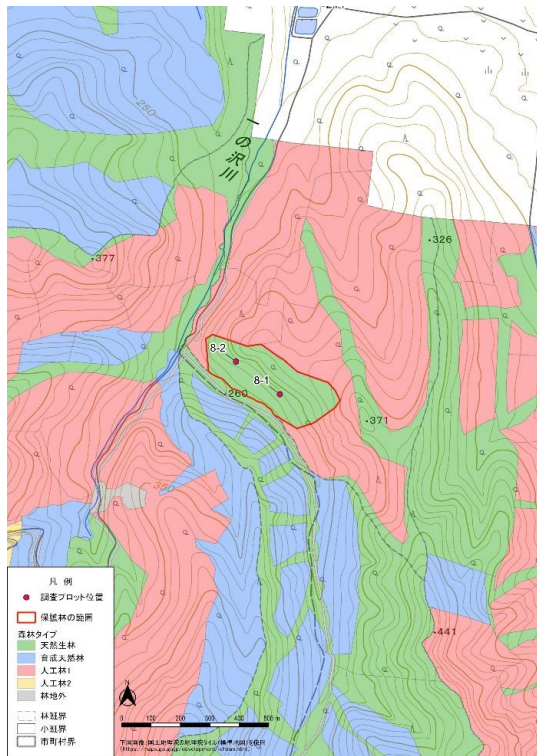


確認された影響[特になし]
 ・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。
 ・オオバボダイジュの天然更新も良好であり、概ね健全なである。
 ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

8 風連トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		風連トドマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		トドマツ			
プロットNo.		8-1		8-2	
旧No.		30903-1		30903-2	
調査日		2018/7/27		2023/7/20	
プロット情報		303m		305m	
斜面方位、傾斜(平均)		SW 8°		SW 11°	
局所地形		山麓平衡斜面		山麓平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、アカエゾマツ	アカエゾマツ、トドマツ	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ、アカエゾマツ
	【高】樹高	20m以上	17~24m	20m以上	18~26m
	【高】樹被率	-	80%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	16~65cm	30cm以上	16~70cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ、ミズナラ	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ
	【中】樹高	10m以上	7~15m	5~10m	8~18m
	【中】樹被率	-	40%	-	40%
	【中】DBH	10~20cm	8~17cm	10~20cm	7~15cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ノリウツギ	トドマツ、オオカメノキ	トドマツ	トドマツ、ハウチワカエデ
	【低】樹高	1~5m	2~6m	1~5m	2~6m
【低】樹被率	-	30%	-	30%	
【低】DBH	5~10cm	2~6cm	5cm未満	2~6cm	
最大樹高	-	アカエゾマツ	-	アカエゾマツ	
樹高	-	24.0m	-	26.0m	
最大直径	-	ミズナラ	-	ミズナラ	
直径	-	70.0cm	-	70.0cm	
保護対象種の本数割合	50~80%	50~80%	50~80%	50~80%	
気象害	-	風害(軽微)	-	風害(軽微)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	糞、角研ぎ	食痕、死骸、角研ぎ	シカ道、糞、角研ぎ
	その他痕跡	-	-	-	-
	痕跡の程度	-	軽微	中	軽微
	痕跡のコメント	-	-	新しい角研ぎ痕あり	-
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	各種混在
	優占する植物種	チシマザサ	クマイザサ	チシマザサ	クマイザサ、エゾズリハ
	植被率	密生	90%	密生	80%
	植生高	0.5~1.5m	0.1~1.6m	0.5~1.5m	0.1~1.1m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種 多い	保護対象種 多い	更新がある
保護林の状況	下層植生にトドマツ天然更新が多い。尾根近くは広葉樹が多くなる。	アカエゾマツの大径木が見られる。トドマツは各階層に見られ、天然更新は順調に行われている。	トドマツの天然更新は多い。	アカエゾマツの大径木が見られる。トドマツは各階層に見られ、天然更新は順調に行われている。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア: 野生鳥獣 イ: 病虫害 ウ: 外来種	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	エ: 温暖化 オ: 自然攪乱 カ: その他 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット8-1

プロット8-2

項目	プロット8-1			プロット8-2		
	H23	R5	比較結果等	H23	R5	比較結果等
楡北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
楡東方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
楡南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
楡西方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・風倒木によるギャップが確認されたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
- ・トドマツの更新木は多数確認されたことから天然更新は順調に行われており、概ね健全な林分である。
- ・引き続き、巡視等のモニタリングにより経過を観察していく。

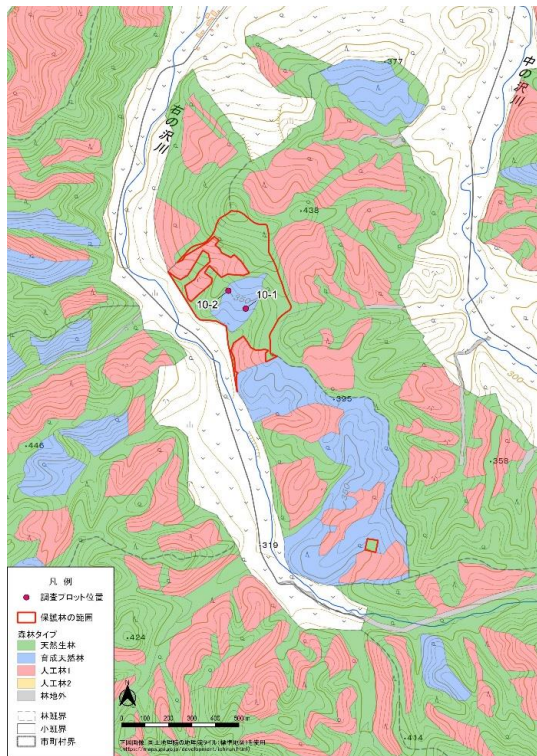


トドマツの稚樹

10 朝日ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名 朝日ウダイカンバ等遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種 ウダイカンバ、ミズナラ				
プロット情報	10-1		10-2	
	プロットNo.	30905-1	30905-1	30905-2
調査日	2018/7/29	2023/7/17	2018/7/29	2023/7/17
	標高	368m	368m	368m
局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
	斜面方位、傾斜(平均)	W 17°	SW 24°	SW 24°
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	トドマツ、ミズナラ	ウダイカンバ、ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	13~20m	20m以上
	【高】樹冠率	-	60%	50%
	【高】DBH	30cm以上	17~32cm	30cm以上
	【中】主要構成樹種	ホノノキ、トドマツ	トドマツ	ウダイカンバ、トドマツ
	【中】樹高	5~10m	7~13m	10m以上
	【中】樹冠率	-	40%	60%
	【中】DBH	10cm未満	6~15cm	10~20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ミズナラ	ミズナラ、トドマツ	トドマツ、シナノキ
	【低】樹高	1~5m	2~7m	1~5m
【低】樹冠率	-	20%	20%	
【低】DBH	5cm未満	2~5cm	5cm未満	
最大樹高樹種	-	ミズナラ	-	
樹高	-	20.0m	-	
最大直径樹種	-	ミズナラ	-	
直径	-	32.0cm	-	
保護対象種の本数割合	20~50%	20%以下	20~50%	20%以下
気象害	-	-	-	風害(軽微)
病虫害	-	-	-	-
気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、糞、角研ぎ	-	シカ道、足跡
	その他痕跡	-	-	クマガウラ(食痕)
	痕跡の程度	小	-	軽微
	痕跡のコメント	トドマツに角研ぎ痕あり	-	-
林床植生	主要構成種	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	(主体(40%以上))	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	種比率	100%	100%	100%
種生高	0.5~1.5m	0.1~1.5m	0.5~1.5m	0.1~1.8m
天然更新状況	保護対象種の発生天然更新がある	保護対象種 少ない	保護対象種の発生天然更新がある	保護対象種 少ない
保護林の状況	ミズナラは天然更新が見られるが、ウダイカンバのものは少ない。	ミズナラは数見られ天然更新も見られるが、ウダイカンバは枯死木が多く天然更新も見られない。	ウダイカンバは枯れているか、衰弱している。	ミズナラ、ウダイカンバの天然更新は見られない。ウダイカンバは枯死木が数見される。
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

プロット10-1		プロット10-2	
項目	H30	R5	比較結果等
項目			大きな変化はない。
項目	写真なし		大きな変化はない。
項目			大きな変化はない。
項目	写真なし		大きな変化はない。
項目			大きな変化はない。
項目	写真なし		大きな変化はない。
項目			大きな変化はない。
項目			大きな変化はない。



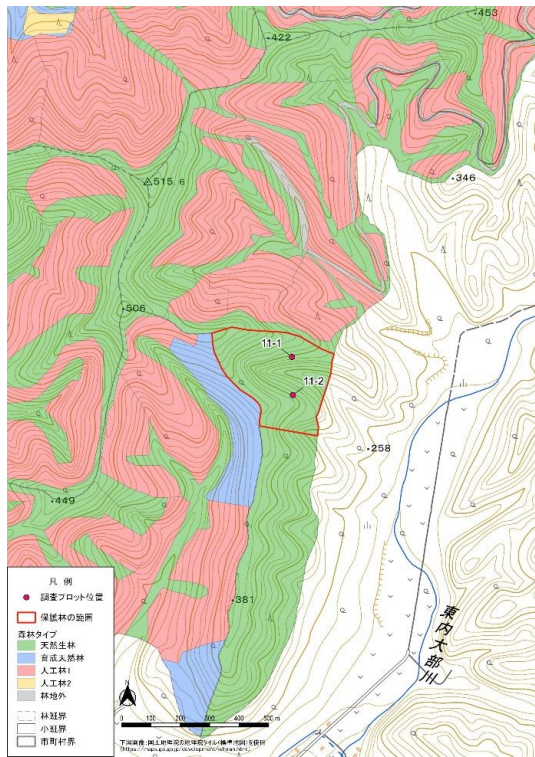
ミズナラの稚樹

確認された影響[特になし]
 ・ウダイカンバとミズナラの希少個体群の生育地として保護されている森林である。
 ・ミズナラの生育は健全であったが、ウダイカンバは衰弱木が多く枯死木も散見され、天然更新はみられなかった。
 ・自然遷移の一環と考えられるが、ウダイカンバの生育状況には留意が必要である。
 ・更新状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

11 上士別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		上士別オオバボダイジュ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		オオバボダイジュ			
プロットNo.	11-1		11-2		
旧No.	30906-1		30906-2		
調査日	2018/7/29	2023/7/17	2018/7/29	2023/7/17	
プロット情報	標高	355m		365m	
	斜面方位・傾斜(平均)	E 32°		E 32°	
林分状況	局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
	【高】主要構成樹種	オオバボダイジュ、ミズナラ	オオバボダイジュ、ミズナラ	オオバボダイジュ、エゾシカ	オオバボダイジュ、アカイタヤ
	【高】樹高	20m以上	17~26m	20m以上	15~22m
	【高】樹冠率	-	80%	-	50%
	【中】主要構成樹種	30cm以上	17~55cm	30cm以上	16~42cm
	【中】樹高	ハワチワカエデ、アカイタヤ	アカイタヤ、ミズナラ	エゾシカ、オオバボダイジュ	アカイタヤ、ホノノキ
	【中】樹冠率	10m以上	8~17m	10m以上	7~15m
	【低】主要構成樹種	10~20cm	7~22cm	10~20cm	6~13cm
	【低】樹高	ハワチワカエデ、シウリザクラ	ハワチワカエデ、シウリザクラ	ハワチワカエデ、オオカメキ	サワシバ、ソノハシバ
	【低】樹冠率	1~5m	2~8m	1~5m	2~7m
	最大樹高樹種	-	ミズナラ	-	オオバボダイジュ
	樹高	-	26.0m	-	22.0m
最大直径樹種	-	ミズナラ	-	オオバボダイジュ	
直径	-	55.0cm	-	42.0cm	
保護対象種の本数割合	20~50%	50~80%	50~80%	20~50%	
気象害	-	風害(軽微)	-	風害(小)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	風倒によるギャップあり	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	食痕	足跡、糞	角研ぎ
	その他痕跡	軽微	軽微	-	軽微
	痕跡の程度	-	-	-	-
	痕跡のコメント	-	-	-	-
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	低木類主体	ササ類主体	低木類主体
	優占する植物種	テシマザサ	エゾユズリハ	テシマザサ	エゾユズリハ
	樹冠率	80%	100%	100%	100%
	樹冠高	0.5~1.5m	0.1~1.2m	0.5~1.5m	0.1~1.4m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種なし	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種 少ない	
保護林の状況	オオバボダイジュは低木、萌芽が見られる。	オオバボダイジュの天然更新は見られないが、その他の樹種のものも多く見られる。	オオバボダイジュは低木の株立ちが多い。	オオバボダイジュは高木層、低木層で見られ、天然更新も確認された。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
	エ 温暖化 オ 自然擾乱 カ その他	-	-	-	-
	一 特になし	-	-	-	-
	林況写真				

プロット11-1

プロット11-2

項目	プロット11-1			プロット11-2		
	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
楕北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
楕東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
楕南方向			大きな変化はない。			低木層の生長がみられる。
楕西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・林況に大きな変化はなく、高木層のオオバボダイジュは健全な状態であった。
- ・プロット11-1ではオオバボダイジュの更新木はみられなかったが、その他の広葉樹の実生や稚樹が多くみられ、全体として天然更新の状況は良好であった。
- ・プロット11-2ではオオバボダイジュの稚樹がみられ、順調に天然更新が行われているといえる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



オオバボダイジュの稚樹

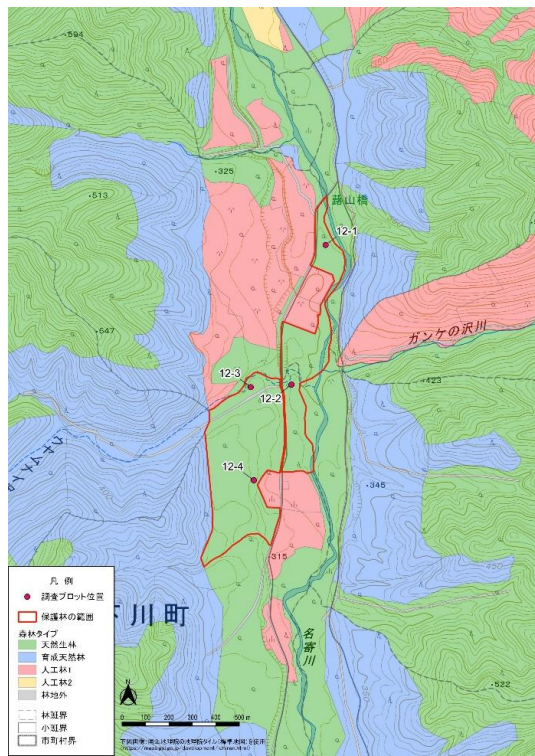
3-3.希少個体群保護林 (2/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
12	30907	一ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林 (28.37ha)	キハダ、ハルニレ	H30	・森林詳細調査 (4箇所)	・大きな変化はなかったが、保護対象種の天然更新が少ない、あるいはみられなかった。 ・一部でシカの食害が確認された。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
13	31501	佐呂間オオバボダイジュ等遺伝資源希少個体群保護林 (11.33ha)	オオバボダイジュ、カツラ、シウリザクラ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・一部でトドマツが優占しつつあるが、保護対象種の実生や稚樹、萌芽もみられ、天然更新は順調であった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
14	31502	佐呂間トドマツ遺伝資源希少個体群保護林 (39.79ha)	トドマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はなく、トドマツの大径木がみられ、天然更新は少なかった。 ・エゾシカの痕跡がやや多くみられるが、トドマツへの影響は軽微であり、その他の樹種の天然更新は順調であった。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
15	31503	常元チョウセンカラマツ遺伝資源希少個体群保護林 (2.59ha)	チョウセンカラマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はなかった。 ・チョウセンカラマツの更新については留意が必要である。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
16	31504	旭ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林 (4.84ha)	ケヤマハンノキ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林床はササが密生し天然更新は少ないが、ケヤマハンノキの萌芽はみられた。 ・亜高木層以下はアカエゾマツが優占しており、今後は針葉樹林へ遷移していく可能性がある。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
17	31505	温根湯イタヤカエデ等遺伝資源希少個体群保護林 (12.35ha)	イタヤカエデ、ハウチワカエデ、アズキナシ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。 ・保護対象種およびその他の樹種の実生や稚樹もみられた。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

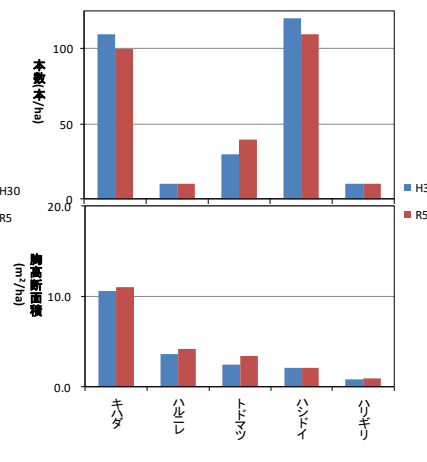
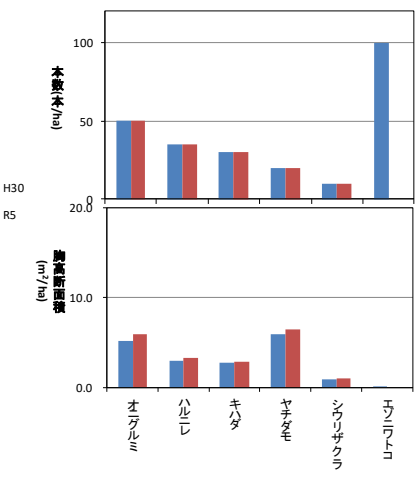
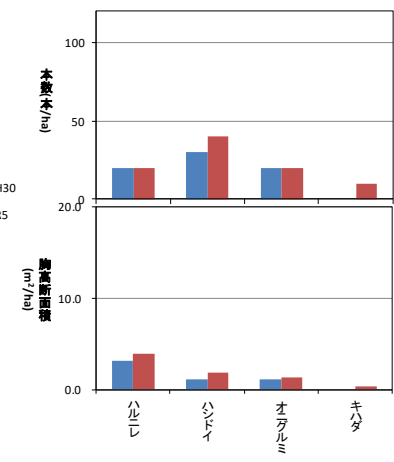
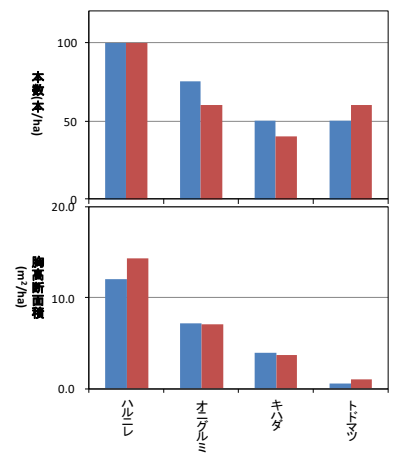
12 一ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(4箇所)



撮影方向	プロット12-1		プロット12-2		プロット12-3		プロット12-4	
	H30	R5	H30	R5	H30	R5	H30	R5
東北方向								
東方向	写真なし		写真なし		写真なし		写真なし	
東南方向								
東南方向	写真なし		写真なし		写真なし		写真なし	
天撮								



12 ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(4箇所)

保護林名	ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種	キハダ、ハルニレ				
プロットNo.	12-1		12-2		
旧No.	30907-1		30907-2		
調査日	2018/7/27	2023/7/18	2018/7/27	2023/7/18	
標高	322m		326m		
斜面方位、傾斜(平均)	E 2°		1°		
局所地形	平坦地				
林分状況	【高】主要構成樹種	ハルニレ、キハダ	ハルニレ、キハダ	ハルニレ	ハルニレ
	【高】樹高	15~26m	17~27m	15~21m	15~23m
	【高】樹被率	40%	40%	30%	30%
	【高】DBH	26~66cm	27~69cm	21~46cm	21~51cm
	【中】主要構成樹種	オニグルミ、トドマツ	オニグルミ、トドマツ	ハシドイ、オニグルミ	ハシドイ、オニグルミ
	【中】樹高	7~13m	8~16m	7~13m	7~14m
	【中】樹被率	20%	20%	20%	20%
	【中】DBH	10~20cm	20~24cm	20~26cm	21~29cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	なし	なし
	【低】樹高	4m	6m	-	-
	【低】樹被率	1%	1%	0%	0%
	【低】DBH	7cm	9cm	-	-
最大樹高樹種	ハルニレ	ハルニレ	ハルニレ	ハルニレ	
樹高	26.1m	27.0m	21.1m	23.0m	
最大直径樹種	ハルニレ	ハルニレ	ハルニレ	ハルニレ	
直径	66.3cm	69.2cm	46.6cm	52.1cm	
保護対象種の本数割合	20~50%	20~50%	50~80%	20~50%	
気象害	-	-	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	食痕	-	食痕
	その他痕跡	-	軽微	-	中
痕跡の程度	-	軽微	-	-	軽微
痕跡のコメント	-	シカのトドマツ剥皮あり	-	-	シカの剥皮あり
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹被率	100%	100%	100%	100%
	植生高	0.5~1.5m	0.1~1.2m	0.5~1.5m	0.1~1.2m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	
保護林の状況	-	キハダ、ハルニレの天然更新は見られないが、ヤチダモの実生が見られる。	-	シカの剥皮が原因と思われる枯損木が散見されるが、防鹿ネットが巻いてある立木の生育は健全である。	-
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[ア]	確認された影響[-]
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

保護林名	ノ橋キハダ等遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種	キハダ、ハルニレ				
プロットNo.	12-3		12-4		
旧No.	30907-3		30907-4		
調査日	2018/7/27	2023/7/18	2018/7/27	2023/7/18	
標高	323m		340m		
斜面方位、傾斜(平均)	NW 3°		1°		
局所地形	平坦地				
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ、ハルニレ	ヤチダモ、ハルニレ	キハダ	キハダ
	【高】樹高	17~27m	19~27m	20~25m	15~22m
	【高】樹被率	-	30%	-	50%
	【高】DBH	30~69cm	17~55cm	19~68cm	16~42cm
	【中】主要構成樹種	キハダ、オニグルミ	キハダ、オニグルミ	トドマツ	トドマツ
	【中】樹高	10~16m	11~20m	8~15m	7~15m
	【中】樹被率	-	40%	-	20%
	【中】DBH	14~40cm	14~40cm	10~20cm	6~13cm
	【低】主要構成樹種	エゾニワトコ	なし	ハシドイ	ハシドイ
	【低】樹高	2m	-	3~8m	5~9m
	【低】樹被率	-	0%	-	1%
	【低】DBH	2cm	-	5~10cm	6~14cm
最大樹高樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	キハダ	キハダ	
樹高	26.8m	27.0m	24.8m	26.1m	
最大直径樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ハルニレ	ハルニレ	
直径	69.1cm	69.2cm	68.0cm	72.8cm	
保護対象種の本数割合	20~50%	20~50%	50~80%	20~50%	
気象害	-	-	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	食痕	-	食痕
	その他痕跡	-	軽微	-	中
痕跡の程度	-	軽微	-	-	軽微
痕跡のコメント	-	シカ剥皮あり	-	-	シカの剥皮あり
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹被率	100%	100%	100%	100%
	植生高	0.5~1.5m	0.1~1.3m	0.5~1.5m	0.1~1.3m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	
保護林の状況	-	シカの剥皮が原因と思われる枯損木が散見されるが、生木の生育は健全である。	-	シカの剥皮が原因と思われる枯損木が散見されるが、生木の生育は健全である。	-
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[ア]	確認された影響[-]	確認された影響[ア]	確認された影響[ア]
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					



キハダの高木



亜高木層の様子



キハダ枯損木

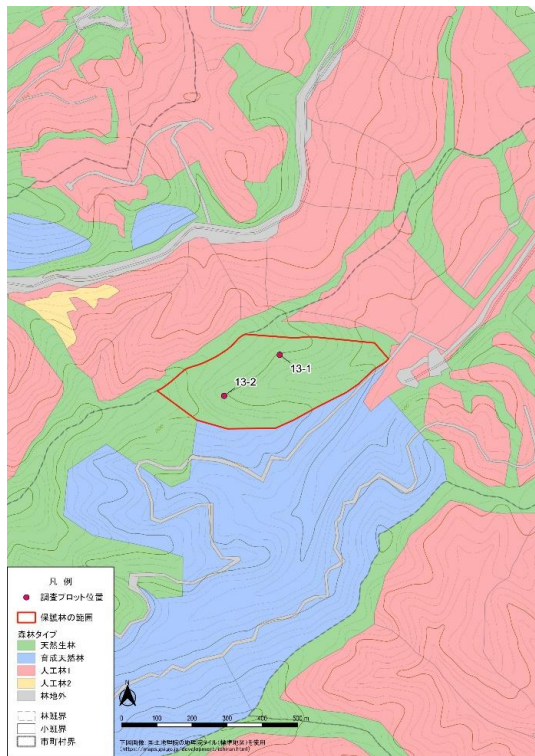
確認された影響[野生鳥獣]

- キハダとハルニレの希少個体群が保護されている森林である。
- 大きな変化はなかったが、保護対象種の天然更新が少ない、あるいはみられなかった。
- 一部でシカの食害が確認された。
- 巡視等によりシカ害等に留意しつつ、経過を観察していく。

13 佐呂間オオバボダイジュ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		佐呂間オオバボダイジュ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		オオバボダイジュ、カツラ、シウリザクラ			
プロットNo		13-1	13-2		
IDNo		31501-1	31501-2		
調査日		2018/8/25	2023/9/27	2018/8/25	2023/9/27
標高		150m		171m	
方位(平均)		SW 29°		SW 2°	
局所地形		山麓平衡斜面		平坦地	
林分状況	[高]主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	トドマツ、エゾヤマザクラ	カツラ、シナノキ	カツラ、シナノキ
	[高]樹高	10~20m	20~33m	20m以上	20~35m
	[高]樹枝率	-	70%	-	30%
	[高]DBH	20~30cm	35~56cm	30cm以上	42~161cm
	[中]主要構成樹種	トドマツ、ホオノキ	トドマツ、ホオノキ	オヒョウ、トドマツ	サワシバ、エゾマツ
	[中]樹高	10m以上	12~18m	5~10m	8~15m
	[中]樹枝率	-	40%	-	40%
	[中]DBH	10~20cm	18~34cm	10~20cm	24~35cm
	[低]主要構成樹種	ハナヅカエデ、シナノキ	ハナヅカエデ、キタコブシ	エゾマツ、ヤマグワ	キタコブシ、シウリザクラ
	[低]樹高	1~5m	2~8m	5m以上	4~8m
[低]樹枝率	-	10%	-	10%	
[低]DBH	5cm未満	2~6cm	5~10cm	4~8cm	
最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	カツラ	カツラ	
樹高	20m	33.4m	23m	24.5m	
最大直径樹種	トドマツ	カツラ	トドマツ	カツラ	
直径	50cm	55.9cm	150cm	161.1cm	
保護対象種の半数割合	ほとんど見られない	20%以下	20~50%	20%以下	
気象害	-	風害(軽微)	風害(軽微)、落雷(軽微)	落雷(軽微)、落雷(軽微)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	風倒木わずかにあり	カツラに落雷痕あり	落雷痕は古い	
エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、角研ぎ、糞	シカ道、足跡、角研ぎ	シカ道、足跡、食痕	糞、足跡、食痕	
その他痕跡	-	クマゲラ(食痕)	-	-	
痕跡の程度	小	軽微	軽微	小	
痕跡のコメント	プロット外に古い角研ぎ痕あり(イチイ、トドマツなど)	トドマツにクマゲラ食痕あり	シカのヨブスマソウ、ムカゴイラクサの食痕わずかにあり	シカの頂芽、下層種の食痕少数あり	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	ジュウモンジシダ	オシダ、ミミコウモリ	オシダ、ジュウモンジシダ	オシダ、ジュウモンジシダ
	樹枝率	40%	40%	40%	40%
樹高	0.1~1.0m	-	-	0.1~1.2m	
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種 少ない	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種以外 普通	
保護林の状況	トドマツ主体の林となっており、保護対象種は見られない。	遷移が進み、トドマツが優占しつつある。林床では天然更新が盛んに行われており、特にトドマツのものが多い。	プロット周辺の保護対象種はカツラのみで、天然更新は見られない。	カツラ、オヒョウの大目木が見られる。実生、稚樹、幼木は少ないが、林床が空いている箇所には実生が少数見られる。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット13-1

プロット13-2

項目	プロット13-1		比較結果等	プロット13-2		比較結果等
	H30	R5		H30	R5	
楳北方向			大きな変化はない。			一部風倒木がみられるが、全体として大きな変化はない。
楳東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
楳南方向			大きな変化はない。			一部風倒木がみられるが、全体として大きな変化はない。
楳西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・オオバボダイジュ、カツラ、シウリザクラの希少個体群の生育地として保護されている森林である。
- ・一部でトドマツが優占しつつあり、更新木もトドマツが多かったが、保護対象種の実生や稚樹、萌芽もみられ、天然更新は順調に行われていた。
- ・林況は概ね良好な林分である。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

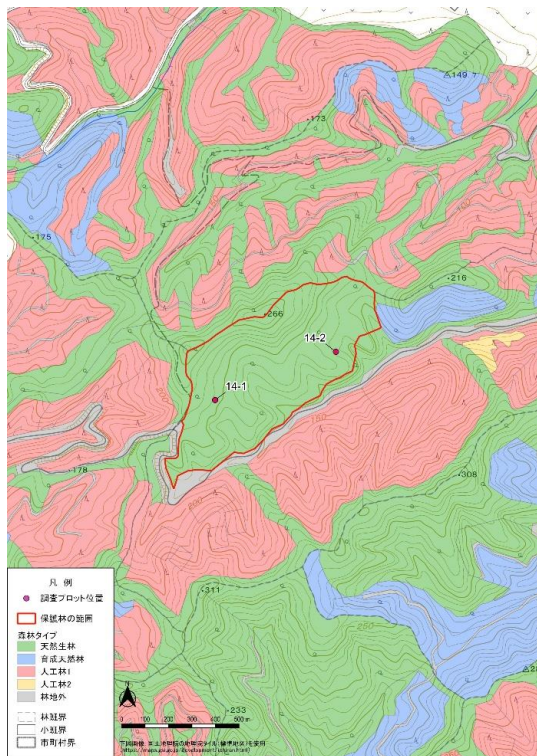


カツラの大径木

14 佐呂間トドマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		佐呂間トドマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		トドマツ			
プロットNo.		14-1		14-2	
IDNo.		31502-1		31502-2	
調査日		2018/8/25		2023/9/27	
標高		207m		165m	
斜面方位、傾斜(平均)		SE 15°		NE 23°	
局所地形		山腹平衡斜面		山腹凹斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	トドマツ、シナノキ	トドマツ、シナノキ	トドマツ、シナノキ
	【高】樹高	10~20m	15~26m	10~20m	17~31m
	【高】樹皮率	-	60%	-	50%
	【高】DBH	30cm以上	40~69cm	30cm以上	38~66cm
	【中】主要構成樹種	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ、ホオノキ	ホオノキ、シナノキ	ホオノキ、シウリザクラ
	【中】樹高	5~10m	8~15m	10m以上	10~16m
	【中】樹皮率	-	40%	-	30%
	【中】DBH	10~20cm	15~35cm	10~20cm	16~24cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ハウチワカエデ	トドマツ、ハウチワカエデ	ハウチワカエデ、シウリザクラ	ハウチワカエデ、シウリザクラ
	【低】樹高	1~5m	3~8m	1~5m	4~10m
【低】樹皮率	-	10%	-	30%	
【低】DBH	5cm未満	3~6cm	5cm未満	3~8cm	
最大樹高	-	トドマツ	-	トドマツ	
樹高	-	26.2m	-	31.1m	
最大直径	-	トドマツ	-	トドマツ	
直径	-	68.9cm	-	65.5cm	
保護対象種の本数割合	50~80%	50~80%	50~80%	50~80%	
気象害	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(軽微)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	風倒木は古い	-	風倒木は古い	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、糞、角研ぎ	シカ道、角研ぎ、食痕	シカ道、糞、角研ぎ	シカ道、食痕
	その他痕跡	-	キツツキ(食痕)	-	クマゲツ(食痕)
痕跡の程度	中	中	中	軽微	
痕跡のコメント	ハウチワカエデ、トドマツに古い角研ぎ痕あり	トドマツに角研ぎ痕、樹皮食痕等あり	シウリザクラ、ハウチワカエデに古い角研ぎ痕あり	シカの頂芽、下層樹生の食痕少数あり	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	クマイザサ、ホソバライシダ	クマイザサ、ホソバライシダ	フックソウ、オシダ	フックソウ、オシダ
	樹皮率	70%	70%	80%	80%
樹皮率	0.5m未満	0.1~1.5m	-	0.2~1.2m	
樹皮率	-	-	-	-	
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種 少ない	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種 少ない	
保護林の状況	トドマツの天然更新は少ないが、キタコブシ、シナノキの更新は盛ん。	トドマツの大径木が多く見られる。シカの影響が見られるが、天然更新は継続している。	林床はキタコブシ、シウリザクラ等盛んに更新している。	トドマツの大径木が見られる。シカの影響は軽微で、天然更新も継続に行われている。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[ア]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
一 特になし					
林況写真					

プロット14-1		プロット14-2	
項目	H30	R5	比較結果等
植北方向			大きな変化はない。
植東方向	写真なし		大きな変化はない。
植南方向			大きな変化はない。
植西方向	写真なし		大きな変化はない。
天候			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]

- ・林況に大きな変化は無く、トドマツの大径木がみられたが、トドマツの天然更新は少なかった。
- ・エゾシカの痕跡がやや多くみられるが、トドマツへの影響は軽微であった。
- ・エゾシカの影響には留意が必要であるが、その他の樹種の旺盛な天然更新がみられる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

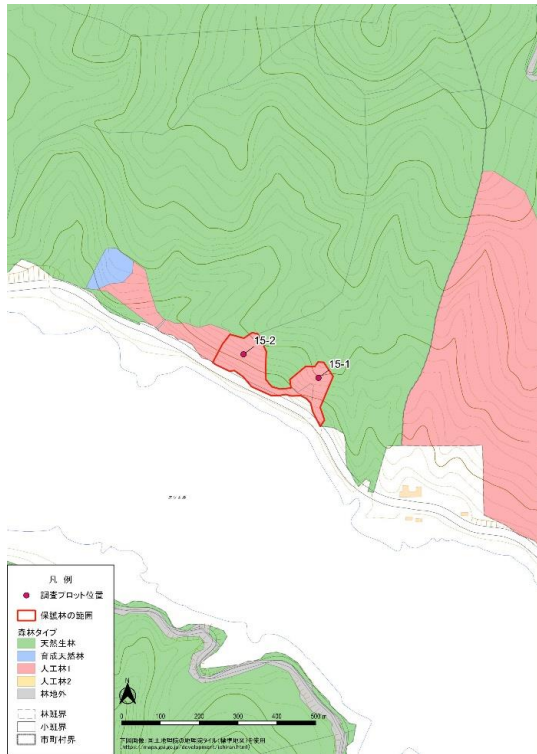


トドマツの高木

15 常元チョウセンカラマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		常元チョウセンカラマツ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		チョウセンカラマツ			
プロットNo.		15-1		29-2	
IDNo.		31503-1		31503-2	
調査日		2018/8/24		2023/7/26	
標高		555m		527m	
傾斜方位、傾斜(平均)		SW 27°		SW 36°	
局所地形		山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	[高]主要構成樹種	チョウセンカラマツ	チョウセンカラマツ	チョウセンカラマツ	チョウセンカラマツ
	[高]樹高	20m以上	22~30m	20m以上	25~29m
	[高]樹冠率	-	70%	70%	-
	[高]DBH	20~30cm	24~41cm	20~30cm	24~45cm
	[中]主要構成樹種	エゾイタヤ、ハリギリ	エゾイタヤ、ハリギリ	トドマツ、エゾイタヤ	エゾイタヤ、ハリギリ
	[中]樹高	10m以上	13~18m	10m以上	12~18m
	[中]樹冠率	-	80%	90%	90%
	[中]DBH	10~20cm	11~21cm	10~20cm	11~30cm
	[低]主要構成樹種	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ、エゾイタヤ	エゾイタヤ	トドマツ
	[低]樹高	1~5m	3~7m	1~5m	2~9m
[低]樹冠率	-	3%	20%	20%	
[低]DBH	5cm未満	3~10cm	5cm未満	2~13cm	
林床植生	最大樹高樹種	-	チョウセンカラマツ	-	チョウセンカラマツ
	樹高	-	30.1m	-	29.4m
	最大直径樹種	-	チョウセンカラマツ	-	チョウセンカラマツ
	直径	-	40.5cm	-	44.8cm
	保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	糞	シカ道、足跡、糞、角研ぎ	シカ道、糞
	その他痕跡	小	軽微	小	小
痕跡の程度	シカのハンゴンソウ食痕わずかにあり	特になし	シカのミヤマヤブタバコ食痕、エゾイタヤの角研ぎ痕若干あり	特になし	
主要構成種(主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体	
優占する植物種	ワラビ、フッキソウ	ワラビ、フッキソウ	フッキソウ、ヒトリシズカ	フッキソウ、ヒトリシズカ	
樹冠率	-	40%	-	50%	
植生高	-	0.1~0.7m	-	0.1~0.5m	
天然更新状況	保護対象種の発生は天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	保護対象種の発生は天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	
保護林の状況	チョウセンカラマツの更新は無し。トドマツ、アカエゾマツの幼木は見られる。	高木層はチョウセンカラマツがまばらに生育し、高木層以下はエゾイタヤ、ハリギリ等が優占する。	チョウセンカラマツの更新は無し。発生はエゾイタヤ、ヤチダモ、ミズキなどが見られる。	高木層はチョウセンカラマツがまばらに生育し、高木層以下はエゾイタヤ、ハリギリ等が優占する。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他 一 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
林況写真					

項目	プロット15-1		比較結果等
	H30	R5	
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

項目	プロット15-2		比較結果等
	H30	R5	
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・林況に大きな変化はなかった。
- ・チョウセンカラマツは高木層にまばらにみられ、生育状況は健全であったが天然更新はみられなかった。その他の樹種の天然更新は順調であった。
- ・林分としては概ね良好な状態であるが、チョウセンカラマツの更新については留意が必要である。
- ・更新状況を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

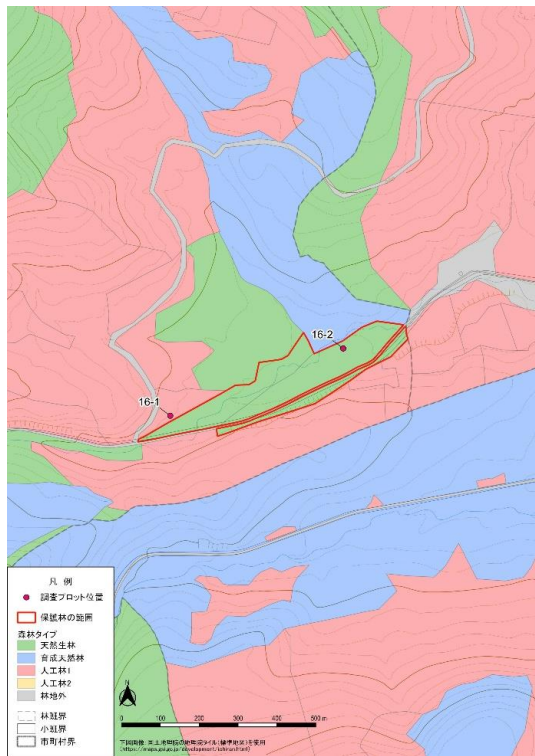


チョウセンカラマツの高木

16 旭ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		旭ケヤマハンノキ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ケヤマハンノキ			
プロットNo.		16-1		16-2	
IDNo.		31504-1		31504-2	
調査日		2018/8/24		2023/7/26	
標高		606m		588m	
斜面方位、傾斜(平均)		S 6°		- 0°	
局所地形		平坦地		平坦地	
林分状況	【高】主要構成樹種	ケヤマハンノキ	ケヤマハンノキ	ケヤマハンノキ、シラカンバ	ケヤマハンノキ
	【高】樹高	10~20m	19~27m	10~20m	18~23m
	【高】種被率	-	70%	80%	80%
	【高】DBH	20~30cm	22~60cm	20~30cm	21~36cm
	【中】主要構成樹種	アカエゾマツ	アカエゾマツ、エゾマツ	アカエゾマツ、ハッコヤナギ	アカエゾマツ、エゾマツ
	【中】樹高	5~10m	10~14m	10m以上	7~10m
	【中】種被率	-	5%	-	5%
	【中】DBH	10~20cm	12~23cm	10~20cm	10~14cm
	【低】主要構成樹種	ケヤマハンノキ、エゾマツ	ケヤマハンノキ、トドマツ	アカエゾマツ	なし
	【低】樹高	1~5m	2~4m	1~5m	-
鳥獣類痕跡	シカ道、足跡、糞	シカ道、足跡、糞	足跡、糞、食痕	食痕、角研ぎ	角研ぎ、食痕
	その他痕跡	-	小	-	中
	痕跡の程度	軽微	小	小	中
	痕跡のコメント	シカのエイラクス食痕若干あり	シカのササ食痕、剥皮少あり	シカのケヤマハンノキへの角研ぎ痕、古い剥皮あり	シカのササ食痕、角研ぎ痕、剥皮あり
	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	各種混在	ササ類主体	ササ類主体
	優占する種物種	クマイザサ	クマイザサ、ミノソバ	クマイザサ	クマイザサ
	種被率	90%	90%	80%	80%
	種高さ	0.5~1.5m	0.1~1.3m	0.5~1.5m	0.1~1.3m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種 少ない	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種 少ない
	保護対象種以外、少ない	保護対象種以外、少ない	保護対象種以外、少ない	保護対象種以外、少ない	
保護林の状況	ケヤマハンノキは倒木によるギャップが数見られる。アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツが亜高木、低木層で優占しつつある。	ケヤマハンノキの倒木によるギャップが数見られる。アカエゾマツ、エゾマツ、トドマツが亜高木、低木層で優占しつつある。	林床はササが密生しており、天然更新は見られない。	プロット1よりも林齢がやや若い。亜高木層はアカエゾマツが優占しており、今後針葉樹林に遷移する可能性がある。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他	- 特になし	- 特になし	- 特になし	- 特になし	
林況写真					

プロット16-1

プロット16-2

項目	プロット16-1		比較結果等	プロット16-2		比較結果等
	H30	R5		H30	R5	
磁北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・林分は概ね健全であったが、倒木によるギャップがみられた。
- ・林床はササが密生し天然更新は少ないが、ケヤマハンノキの萌芽はみられた。
- ・亜高木層以下はアカエゾマツが優占しており、今後は針葉樹林へ遷移していく可能性がある。ケヤマハンノキの生育状況には留意が必要である。
- ・遷移状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

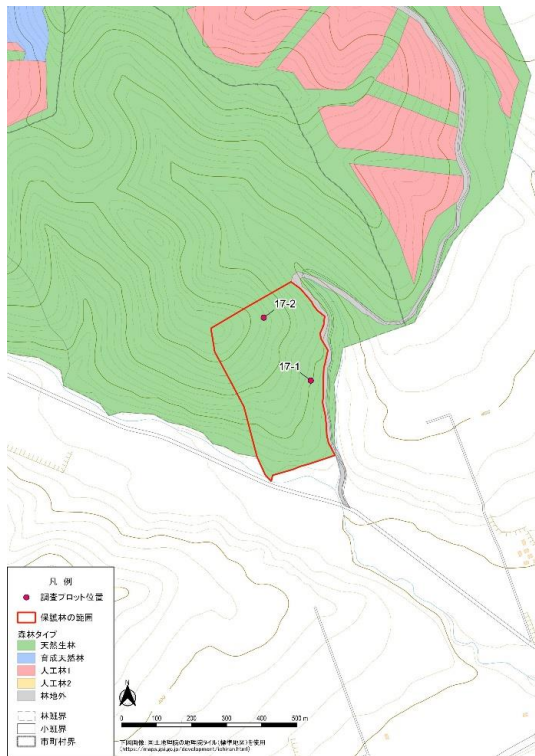


ケヤマハンノキの萌芽

17 温根湯イタヤカエデ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		温根湯イタヤカエデ等資源希少個体群保護林			
保護対象種		イタヤカエデ(エゾイタヤ)、ハウチワカエデ、アズキナシ			
プロットNo.		17-1		17-2	
旧No.		31505-1		31505-2	
調査日		2018/6/25		2023/7/27	
標高		416m		497m	
傾方位、傾斜(平均)		SE 22°		SE 22°	
局所地形		山麓平衡斜面		山麓凸斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	シナノキ、エゾイタヤ	オオバボダイジュ、エゾイタヤ	シナノキ、アサダ
	【高】樹高	10~20m	17~23m	10~20m	21~28m
	【高】植被率	-	90%	-	80%
	【高】DBH	20~30cm	27~48cm	30cm以上	25~50cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ、エゾイタヤ	オオモミジ、ハウチワカエデ	エゾイタヤ	ヤマモミジ、エゾイタヤ
	【中】樹高	10m以上	7~12m	5~10cm	8~16m
	【中】植被率	-	30%	-	40%
	【中】DBH	10~20cm	6~15cm	10~20cm	9~22cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	エゾイタヤ、トドマツ	アカエゾマツ	トドマツ
	【低】樹高	1~5m	2~5m	1~5m	2~5m
【低】植被率	-	10%	-	10%	
【低】DBH	5~10cm	2~5cm	5~10cm	1~8m	
最大樹高樹種	-	トドマツ	-	シナノキ	
樹高	-	23.2m	-	27.8m	
最大直径樹種	-	トドマツ	-	シナノキ	
直径	-	47.5cm	-	49.8cm	
保護対象種の本数割合	20~50%	-	20~50%	20%以下	
気象害	風害(軽微)	-	風害(軽微)	風害(軽微)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	トドマツの幹折れわずかにあり	風倒木は古い	風害による根返り木わずかにあり	
エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞、食痕	シカ道、糞、食痕	シカ道、足跡、糞、食痕	糞	
その他痕跡	ネズミ類(食痕)	-	-	-	
痕跡の割合	大	軽微	大	-	
痕跡のコメント	シカのササ、下層樹生の古い食痕多い	シカのササ食痕わずかにあり	シカのササ、下層樹生の古い食痕多い	特になし	
主要構成種(主体は30%以上)	各種混在	各種混在	各種混在	各種混在	
優占する植物種	クマイザサ、ヨブスマソウ	クマイザサ、フツクソウ	クマイザサ、クムバソウ	クマイザサ、ヒトリシズカ	
植被率	疎生または散在	70%	疎生または散在	50%	
植生高	0.5m未満	0.1~0.8m	0.5m未満	0.1~0.5m	
天然更新状況	保護対象種の天然更新が見られる	保護対象種 少ない	保護対象種の天然更新が見られる	保護対象種 普通	
更新が見られる	更新が見られる	更新が見られる	更新が見られる	更新が見られる	
保護林の状況	シカの食痕が多く見られ、特にササは全域で食べられている。	主にエゾイタヤは高木、低木層に、アズキナシは高木層、ハウチワカエデは至高木層で見られる。	シカの食痕が多く見られ、特にササは全域で食べられている。	シナノキが優占し、エゾイタヤは高木、至高木層で見られる。アズキナシ、ハウチワカエデは少ない。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 工:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
林況写真					

プロット17-1			プロット17-2				
項目	H30	R5	比較結果等	項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。	磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。	磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。	磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。	磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。	天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- 本保護林はイタヤカエデ(エゾイタヤ)、ハウチワカエデ、アズキナシの希少個体群生育地として保護されている森林である。
- わずかに風害による幹折れや根返り木がみられたが、林況に大きな変化はなく健全な状態であった。
- 保護対象種およびその他の樹種の実生や稚樹等の天然更新もみられた。
- 引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



エゾイタヤの実生

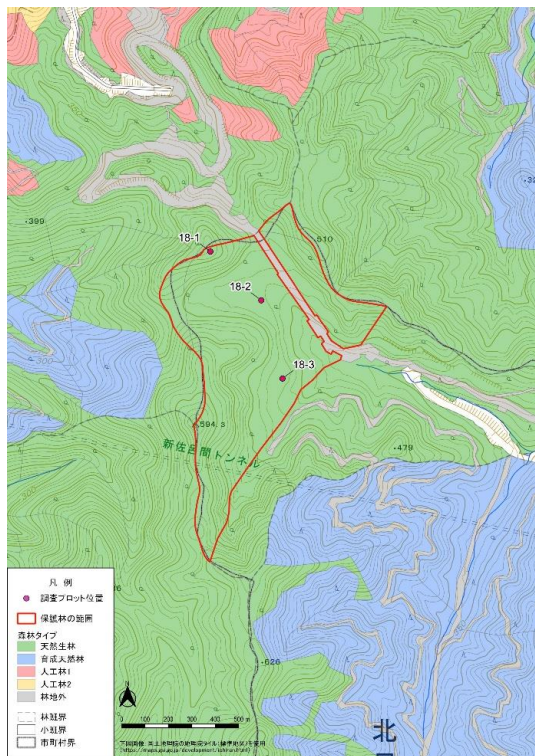
3-3.希少個体群保護林 (3/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
18	31506	端野ダケカンバ等遺伝資源希少個体群保護林 (57.53ha)	ダケカンバ、シナノキ、オヒヨウ	H30	・森林概況調査 (3箇所)	・林況に大きな変化はなく、健全な状態であった。 ・実生や稚樹もみられ、天然更新は順調に行われている。 ・ダケカンバの立木は少なく、更新木もみられない点には留意が必要である。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
19	31507	日吉ホオノキ等遺伝資源希少個体群保護林 (7.36ha)	ホオノキ、アサダ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・その他樹種の天然更新は順調であるが、ホオノキの天然更新は少数みられる程度。アサダの天然更新はみられなかった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
20	31508	端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林 (8.53ha)	シラカンバ、ハリギリ、チョウセンヤマナラシ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・保護対象種の高木もみられ林況は健全だが、林床はササが密生し実生は少数だった。 ・保護林内の一部が伐採され、植林されていた。	5年	確認された影響[その他] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
21	31509	旭エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (6.22ha)	エゾマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・エゾマツ及びその他の立木は健全であった。 ・エゾシカの影響に留意が必要である。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
22	31510	佐呂間ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林 (10.86ha)	ミズナラ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はなかった。 ・ミズナラは各階層にみられ、大径木も散見された。天然更新も少数ながら確認された。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
23	31511	常呂モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林 (18.25ha)	モンゴリナラ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はなかった。 ・林床にシカの痕跡が多く、天然更新の確認はやや少なかった。 ・健全な林分であるが、更新には留意が必要な林分といえる。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

18 端野ダケカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(3箇所)



項目	H30 プロット18-1 R5	
撮影方向		
撮影方向		
撮影方向		
天候		

項目	H30 プロット18-3 R5	
撮影方向		
撮影方向		
撮影方向		
天候		

項目	H30 プロット18-2 R5	
撮影方向		
撮影方向		
撮影方向		
天候		

保護林名	端野ダケカンバ等遺伝資源希少個体群保護林					
	ダケカンバ、シナノキ、オヒョウ		18-2		18-3	
保護対象種	18-1		18-2		18-3	
プロットNo	18-1		18-2		18-3	
区No	31509-3		31506-1		31506-2	
調査日	2018/8/23	2023/9/25	2018/8/23	2023/9/25	2018/8/23	2023/9/25
標高	518m	425m	425m	425m	425m	425m
プロット情報	SE 20°		SE 5°		SE 15°	
斜面方位	平均傾斜		山腹凹斜面		山腹平衡斜面	
高所地形	平坦尾根		山腹凹斜面		山腹平衡斜面	
【高】主要構成樹種	ダケカンバ、シナノキ	トドマツ、シナノキ	オヒョウ、ヤチダモ	カツラ、オヒョウ	オヒョウ、カツラ	カツラ、オヒョウ
【高】樹高	10~20m	18~22m	20m以上	17~38m	20m以上	19~35m
【高】樹皮率	-	80%	30%以上	70%	-	60%
【高】DBH	20~30cm	22~42cm	30cm以上	35~101cm	30cm以上	40~123cm
【中】主要構成樹種	エゾイタヤ、アズキナシ	シナノキ、アズキナシ	シクリザクラ	トドマツ、オヒョウ	オヒョウ、エゾイタヤ	シナノキ、オヒョウ
【中】樹高	5~10m	8~15m	5~10m	10~15m	5~10m	13~18m
【中】樹皮率	-	50%	-	40%	-	40%
【中】DBH	10~20cm	15~35cm	10~20cm	20~42cm	10~20cm	16~33cm
【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ、ホノノキ	ハウチワカエデ、ホノノキ	なし	オヒョウ、シクリザクラ	オヒョウ、エゾイタヤ	シナノキ、ハウチワカエデ
【低】樹高	1~5m	3~8m	-	4~10m	1~5m	3~10m
【低】樹皮率	-	20%	-	10%	-	20%
【低】DBH	5cm未満	3~6cm	-	12~20cm	5~10cm	4~13cm
最大樹高樹種	-	ダケカンバ	-	カツラ	-	カツラ
樹高	-	21.8m	-	38.7m	-	35.2m
最大直径樹種	-	ダケカンバ	-	カツラ	-	カツラ
直径	-	42.2cm	-	101.0cm	-	123.0cm
保護対象種の更新割合	50~80%	50~80%	50~80%	20~50%	20~50%	50~80%
気象害	-	-	-	-	-	-
病虫害	-	-	-	-	-	-
気象害等のコメント	-	-	-	-	-	-
エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	食痕	シカ道	食痕	-	食痕
その他痕跡	-	小	-	-	-	-
痕跡の割合	-	小	-	-	-	-
痕跡のコメント	-	特になし	-	特になし	-	特になし
主要構成種 (主伐は30%以上)	草本類主体	草本類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
標点する植物種	フックソウ	フックソウ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
樹皮率	-	80%	樹皮文は数枚	80%	密生	80%
樹生高	-	0.1~1.0m	0.5~1.5m	0.1~1.0m	0.5~1.5m	0.1~1.2m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種、普通更新が見られる	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種、少ない更新が見られる	保護対象種、少ない更新が見られる	保護対象種、少ない更新が見られる
保護林の状況	シナノキは萌芽も含め盛んに更新している。ダケカンバが更新するには特殊な環境が必要である。	保護対象種のうち、オヒョウ、ダケカンバの更新木は数本見られる。シナノキの更新木は多く見られる。	オヒョウは多く見られる。ダケカンバ、シナノキは少ない。	保護対象種のうち、オヒョウは各層に見られる。ダケカンバは更新木は数本見られるが、実生は減少しつつある。	ダケカンバ樹木上にシナノキ実生が多い。オヒョウは多量に見られるが、実生は減少しつつある。	保護対象種のうち、ダケカンバはプロット外に少数見られる程度。シナノキ、オヒョウは更新木、樹木層でも見られる。実生および萌芽も見られる。
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣	イ:病虫害	ウ:外来種	エ:温暖化	オ:自然災害	カ:その他	ク:その他
引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真						



シナノキの稚樹

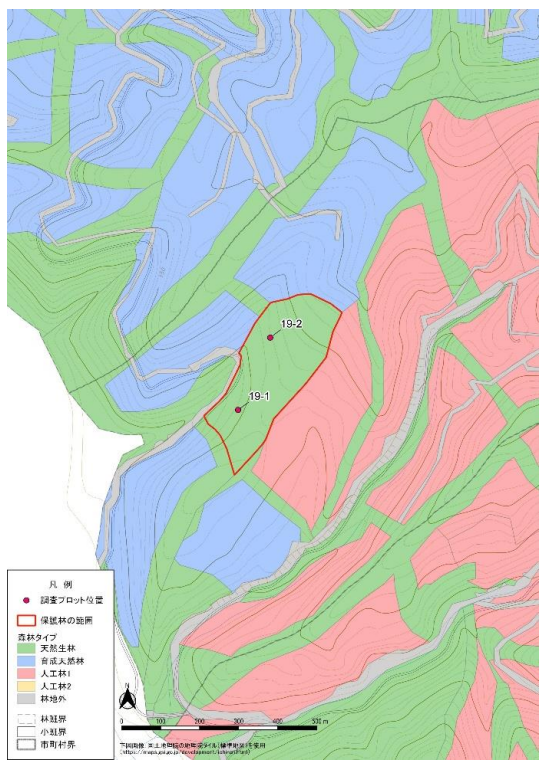
確認された影響[特になし]

- 本保護林はダケカンバ、シナノキ、オヒョウの希少個体群生育地として保護されている森林である。
- 林況に大きな変化はなく健全な状態であった。シナノキ、オヒョウおよびその他の樹種の実生や稚樹もみられ、天然更新は順調に行われている。
- ダケカンバの立木は少なく、更新木もみられない点には留意が必要である。
- 更新状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。55

19 日吉ホオノキ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		日吉ホオノキ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ホオノキ、アサダ			
プロットNo.		19-1		19-2	
日No.		31507-1		31507-2	
調査日		2018/6/29		2023/9/27	
標高		87m		118m	
傾斜方位・傾斜(平均)		NW 14°		NE 22°	
局所地形		山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
プロット情報	【高】主要構成樹種	ミズナラ、シナノキ	ミズナラ、エゾイタヤ	ミズナラ、アサダ	ミズナラ、アサダ
	【高】樹高	20m以上	18~33m	20m以上	17~27m
	【高】植被率	-	50%	-	70%
	【高】DBH	30cm以上	35~87cm	30cm以上	30~69cm
	【亜】主要構成樹種	ホオノキ、オオハコダイジュ	オオハコダイジュ、ホオノキ	エゾイタヤ、アサダ	エゾイタヤ、アサダ
	【亜】樹高	10m以上	10~17m	5~10m	11~15m
林分状況	【亜】植被率	-	30%	-	60%
	【亜】DBH	10~20cm	13~19cm	10~20cm	20~28cm
	【低】主要構成樹種	オオハコダイジュ	オオハコダイジュ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
	【低】樹高	1~5m	3~6m	5m以上	3~9m
	【低】植被率	-	10%	-	20%
	【低】DBH	5~10cm	4~7cm	5~10cm	4~6m
	最大樹高樹種	-	エゾイタヤ	-	ミズナラ
	樹高	-	33.2m	-	27.5m
	最大直径樹種	-	ミズナラ	-	ミズナラ
	直径	-	87.0cm	-	69.3cm
鳥獣類痕跡	保護対象種の本数割合	20%以下	20%以下	20~50%	20~50%
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
痕跡の割合	ツノシカ	脅	-	シカ道、脅	-
	その他	中	-	中	-
痕跡のコメント	ツノシカ、ササ、アサダにシカの古い痕跡あり	特になし	鹿糞はいてアライシあり	特になし	
	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
林床植生	優占する植物種	チシマザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	80%	密生	40%	密生
	植生高	0.5~1.5m	0.4~1.0m	0.5~1.5m	0.1~1.0m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少なく、見られない	保護対象種 少ない	保護対象種の実生の天然更新が少なく、見られない	保護対象種 少ない
保護林の状況	ササが密生し天然更新は少ない。	ホオノキは亜高木層、アサダは高木層で見られる。また、ホオノキの萌芽が少数見られる。ハルニレ、ハリギリ等の天然更新は顕著。	実生はウツミズザクラ、ミズナラ、エゾイタヤなどが見られる。	ホオノキは主に亜高木層、低木層で見られる。アサダは高木層で見られる。アサダは高木層で見られるが天然更新は見られない。その他の種の天然更新は顕著。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
	野生鳥獣 ウ 外来種 工 温暖化 オ 自然環境 カ その他 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

		プロット19-1			プロット19-2		
		H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
項目	撮北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	撮東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
撮南方向	撮南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	撮西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂	天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- 本保護林はホオノキ、アサダの希少個体群生育地として保護されている森林である。
- ホオノキは主に亜高木層以下、アサダは主に亜高木層以上でみられ両種とも立木は健全な状態であった。
- その他樹種の天然更新は旺盛であるが、ホオノキの天然更新は少数みられる程度でアサダの天然更新はみられなかった。
- 引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

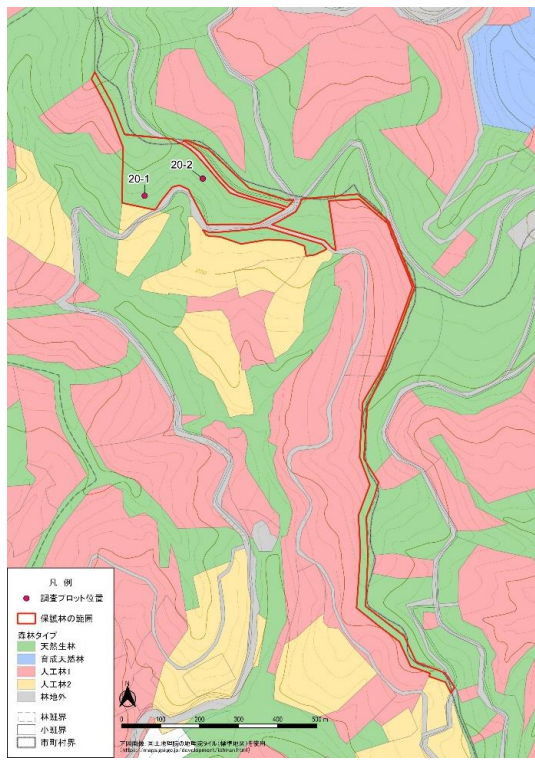


ホオノキの高木

20 端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



プロット20-1

	H30	R5	比較結果等
南北方向			プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
縦東方向	写真なし		プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
縦南方向			プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
縦西方向	写真なし		プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。
天頂			プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。

プロット20-2

	H30	R5	比較結果等
南北方向			大きな変化はない。
縦東方向	写真なし		大きな変化はない。
縦南方向			大きな変化はない。
縦西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

保護林名	端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種	シラカンバ、チョウセンヤマナラシ、ハリギリ				
プロットNo.	20-1	20-2	31508-2	285m	
IDNo.	31508-1		31508-2		
調査日	2018/8/11	2023/9/26	2018/8/11	2023/9/26	
プロット情報	標高	268m	285m		
	斜面方位、傾斜(平均)	SW 28°	SW 20°		
	局所地形	山麓平衡斜面	山麓平衡斜面		
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、ハリギリ	シラカンバ、ハリギリ	シラカンバ、ハリギリ	ハリギリ、チョウセンヤマナラシ
	【高】樹高	20m以上	18~26m	20m以上	18~24m
	【高】樹冠率	-	60%	-	70%
	【高】DBH	30cm以上	24~45cm	20~30cm	35~54cm
	【中】主要構成樹種	ハリギリ、イヌエンジュ	シラカンバ、チョウセンヤマナラシ	イタヤカエデ	トドマツ、ハリギリ
	【中】樹高	5m以下	10~15m	5~10m	15~17m
	【中】樹冠率	-	20%	-	10%
	【中】DBH	10cm未満	18~21cm	10cm未満	16~25cm
	【低】主要構成樹種	ハリギリ	アカイタヤ、エゾイタヤ	なし	シノブキ、エゾイタヤ
	【低】樹高	1~5m	3~9m	-	3~7m
【低】樹冠率	-	40%	-	10%	
【低】DBH	5cm未満	4~7cm	-	3~8m	
最大樹高樹種	-	シラカンバ	-	ハリギリ	
最大直径樹種	-	シラカンバ	-	ハリギリ	
直径	-	44.6cm	-	54.4cm	
保護対象種の本数割合	20%以下	50~80%	80%以上	50~80%	
気象害	-	-	-	-	
病虫害	カミキリムシ類	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	糞	糞	-	
	その他痕跡	-	-	-	
	痕跡の割合	軽微	-	-	
	痕跡のコメント	-	シカの剥皮わずかにあり	-	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ、クワイテグ	チシマザサ	
	樹冠率	80%	80%	80%	
	樹高	0.5~1.5m	0.1~1.5m	0.5m未満	
天然更新状況	保護対象種の突生の天然更新が見られる	保護対象種 多い	保護対象種の突生の天然更新が見られる	保護対象種 少ない	
保護林の状況	-	プロット周辺はカラマツの若齢人工林となっていた。	-	保護対象種のハリギリ、チョウセンヤマナラシ、シラカンバの天然更新は見られないが、立木の生育は健全である。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	伐採の影響あり	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[+]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 工:温暖化 オ:自然擾乱 カ:その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

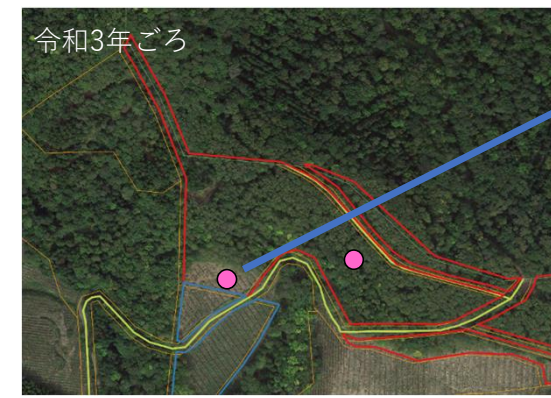
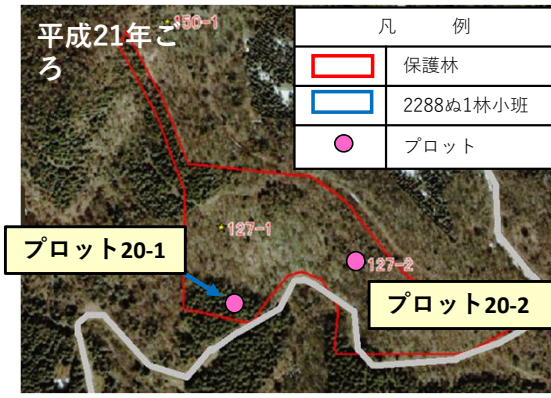
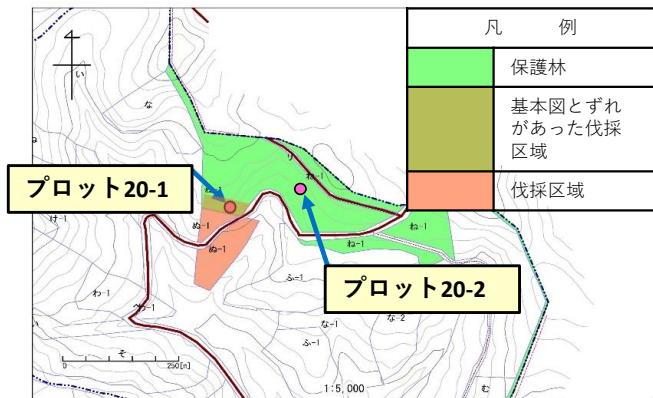
確認された影響[その他]

- ・本保護林はシラカンバ、チョウセンヤマナラシ、ハリギリの希少個体群生育地として保護されている森林である。
- ・プロット20-1の周囲は、カラマツの若齢人工林となっていた。その後確認したところ、このプロットは隣接する2288ぬ1小班（昭和5年植栽トドマツ人工林、令和元年主伐、令和3年にカラマツ再造林）であることが判明した。
- ・保護林と隣接する2288ぬ1小班について、現地と森林基本図上の区分に相違があったため、小班界を整理し今後もそれぞれ継続し管理する。

【補足説明】20端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林の区域の修正について

今後の取扱い

- 端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林(2288ね1林小班 8.53ha) 及び隣接する2288ぬ1林小班 (昭和5年植栽トドマツ人工林、令和元年主伐、令和3年再造林) について、現地と森林基本図上の区域に相違があったことが判明した。具体的には、当該保護林の森林基本図における区域が、隣接する人工林にくいこむ形で表現されていたとともに、プロット20-1がこの人工林に設定されていたところ。
- このことを踏まえ、森林基本図を現地と一致するよう修正するとともに、プロット20-1を2288ね1小班に移動させることとする。これにより、当該保護林の面積については、8.17haに修正されることとなる。



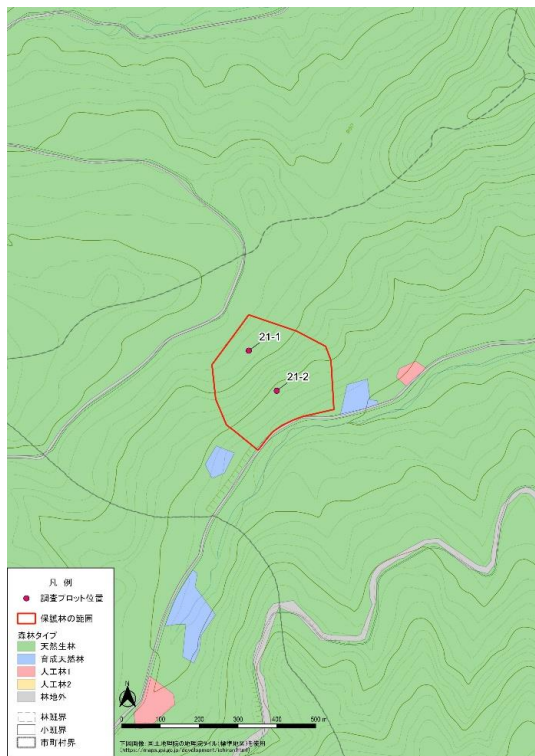
令和5年度調査 プロット20-1箇所
現地写真 (令和5年9月26日)



21 旭エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		旭エゾマツ遺伝資源希少個体群保護林	
保護対象種		エゾマツ	
プロットNo.	21-1	21-2	
IDNo.	31509-1	31509-2	
調査日	2018/8/24	2023/6/28	2018/8/24
調査日		2023/6/28	
標高	980m	917m	
斜面方位(傾斜(平均))	SE 9°	SE 25°	
局所地形	山腹平衡斜面	山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	エゾマツ、トドマツ	トドマツ、エゾマツ
	【高】樹高	20~27m	21~36m
	【高】樹被率	70%	60%
	【高】DBH	34~72cm	32~94cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ、ダケカンパ	トドマツ
	【中】樹高	8~15m	8~11m
	【中】樹被率	20%	30%
	【中】DBH	12~21cm	9~12cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ、ダケカンパ	トドマツ
	【低】樹高	4~5m	2~4m
【低】樹被率	5%	10%	
【低】DBH	3~5cm	1~5m	
最大樹高樹種	エゾマツ	アカエゾマツ	
最大直径樹種	エゾマツ	アカエゾマツ	
直径	72.1cm	94.4cm	
保護対象種の主要割合	50~80%	20~50%	
気象害	風害(軽微)	風害(小)	
病虫害	-	-	
気象害等のコメント	-	風倒によるギャップあり	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	糞、食痕
	その他痕跡	大	大
痕跡の程度	シカのササ食痕多い	シカのササ食痕多い	
痕跡のコメント	不到達につき記載なし	不到達につき記載なし	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ
	樹被率	70%	70%
	植生高	0.1~1.1m	0.5~1.4m
天然更新状況	保護対象種:少ない	保護対象種:少ない	
	保護対象種以外:少ない	保護対象種以外:少ない	
保護林の状況	エゾマツ、トドマツが優占し、ギャップにダケカンパが生育する。伐根上にエゾマツ、トドマツの稚樹が見られる。	アカエゾマツの大径木が見られる。エゾマツは倒木上に稚樹が少く見られる。	
	シカによる影響あり	シカによる影響あり	
評価・課題等確認された影響	確認された影響【ア】	確認された影響【ア】	
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他			
ニ:特になし			
林況写真			

プロット21-1

プロット21-2

項目	プロット21-1			プロット21-2		
	H30	R5	林分の状況等	H30	R5	林分の状況等
撮影方向	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
撮影方向	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
撮影方向	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
撮影方向	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
撮影方向	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。	撮影なし		シカのササ食痕が多いが、立木は健全な状態である。
天頂	撮影なし		健全な状態である。	撮影なし		健全な状態である。

確認された影響[野生鳥獣]

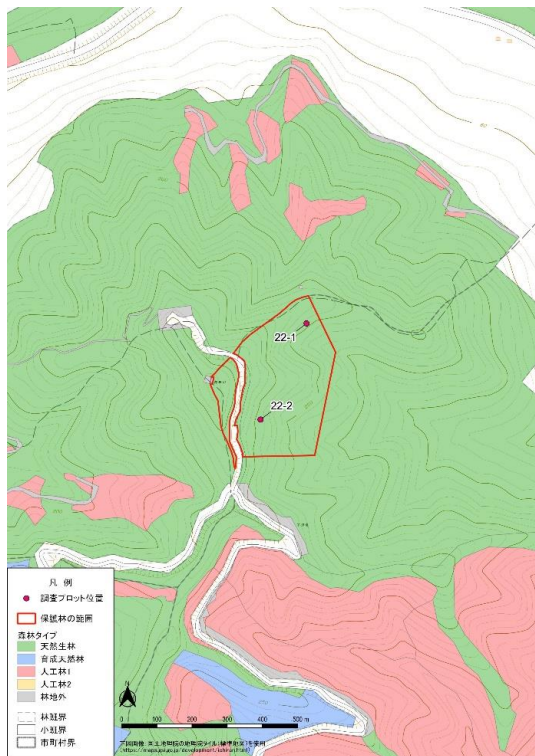
- ・エゾマツ及びその他の立木は健全であった。
- ・風倒木が少数みられ、林床のクマイザサが広範囲でエゾシカに食害されていたが、現状ではエゾマツおよびその他の樹種に大きな影響はみられず、天然更新も倒木や伐根上に少数ながら確認された。
- ・エゾシカによる影響に留意が必要である。
- ・シカの食害に留意しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

倒木上のエゾマツ稚樹

22 佐呂間ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		佐呂間ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ミズナラ			
プロットNo.		22-1		22-2	
IDNo.		31510-1		31510-2	
調査日		2018/8/23	2023/9/28	2018/8/23	2023/9/28
プロット情報	標高	251m		285m	
	斜面方位、傾斜(平均)	SE 30°		SW 20°	
林分状況	高所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
	【高】主要構成樹種	ミズナラ、エゾマツ	ミズナラ、ウダイカンパ	トドマツ、ハリギリ	ミズナラ、トドマツ
	【高】樹高	10~20m	20~23m	20m以上	20~23m
	【高】植被率	-	70%	80%	80%
	【高】DEH	30cm以上	35~96cm	30cm以上	35~94cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ、エゾイタヤ	トドマツ、ミズナラ	エゾマツ、トドマツ	トドマツ、ハリギリ
	【中】樹高	5~10m	10~15m	5~10m	13~16m
	【中】植被率	-	10%	50%	-
	【中】DEH	10~20cm	15~25cm	10~20cm	13~18cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ、ハウチワカエデ	トドマツ、アカイタヤ	ハウチワカエデ、トドマツ	エゾイタヤ、オヒョウ
【低】樹高	1~5m	2~7m	1~5m	3~7m	
【低】植被率	-	5%	1%	-	
【低】DEH	5cm未満	2~12cm	5~10m	4~13m	
鳥獣類痕跡	シカ道	-	-	シカ道、鼠道、角研ぎ	シカ道、鼠道、角研ぎ、食痕
	クマガラ(食痕)	クマガラ(食痕)	クマガラ(食痕)	クマガラ(食痕)	クマガラ(食痕)
林床植生	主要構成種(主枝は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
保護林の状況	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う

項目	プロット22-1			プロット22-2		
	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
撮北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
撮東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
撮南方向			大きな変化はない。			風倒木がみられるものの、影響は少ない。
撮西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		風倒木がみられるものの、影響は少ない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- 林況に大きな変化はなかった。
- ミズナラは各階層にみられ、大径木も散見された。天然更新も少数ながら確認された。
- その他の樹種の生育や天然更新も順調であり、概ね健全な林分であるといえる。
- 引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

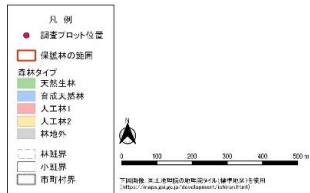
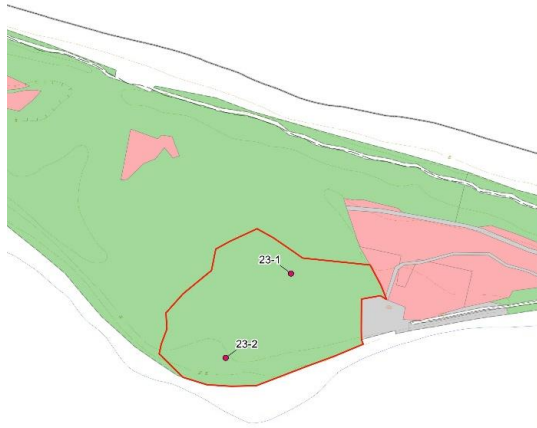


ミズナラの実生

23 常呂モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)

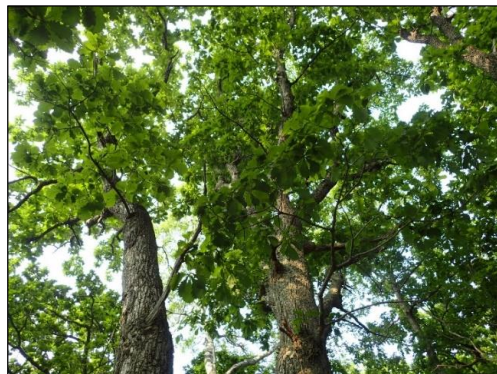


保護林名		常呂モンゴリナラ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		モンゴリナラ			
プロットNo.		23-1		23-2	
IDNo.		31511-1		31511-2	
調査日		2018/6/25		2023/6/26	
標高		10m		12m	
プロット情報		沖積堆積地			
斜面方位、傾斜(平均)		0°			
局所地形		沖積堆積地		沖積堆積地	
林分状況	【高】主要構成樹種	モンゴリナラ	モンゴリナラ	ミズナラ	カシワ、モンゴリナラ
	【高】樹高	10~20m	18~26m	20m以上	20~24m
	【高】植被率	-	90%	-	90%
	【高】DEH	30cm以上	23~77cm	30cm以上	25~73cm
	【中】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	ハリギリ	エゾイタヤ
	【中】樹高	5~10m	7~14m	5~10m	7~15m
	【中】植被率	-	50%	-	20%
	【中】DEH	10~20cm	10~16cm	10~20cm	6~12cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	エゾイタヤ	エゾイタヤ
	【低】樹高	1~5m	4m	1~5m	3~5m
【低】植被率	-	1%	-	30%	
【低】DEH	5cm未満	3cm	5cm未満	3~5m	
鳥獣類痕跡	最大樹高樹種	-	モンゴリナラ	-	モンゴリナラ
	樹高	-	25.6m	-	24.2m
	最大直径樹種	-	モンゴリナラ	-	モンゴリナラ
	直径	-	77.0cm	-	72.5cm
保護対象種の主要割合	保護対象種の本数割合	80%以上	20~50%	80%以上	20%以下
	気象害	-	-	-	-
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	-	-	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	シカ道、足跡、糞、食痕	食痕	シカ道、糞、角研ぎ、食痕
	その他の痕跡	小	大	小	大
林床植生	主要構成種(主伐は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率	70%	70%	50%	50%
	植生高	1.0m未満	0.1~0.6m	1.0m未満	0.1~0.5m
保護林の状況	天然更新状況	保護対象種の低木の天然更新が見られる	保護対象種:少ない 保護対象種以外:多い	保護対象種の低木の天然更新が見られる	保護対象種:少ない 保護対象種以外:普通
	エゾシカの痕跡が一部に見られるが、保護対象種への影響は無し。	モンゴリナラとされる(個体)は高木層に見られ、亜高木層以下には見られ、健全ではあるが、更新口まやや不安が残る。シカの影響に留意が必要である。	モンゴリナラ、ナナカマドの立ち枯れあり。エゾシカの痕跡が一部に見られるが、保護対象種への影響は無し。	健全な林分である。モンゴリナラの特徴が顕著な個体は、亜高木層には見られる。シカの影響もあり、更新口まやや不安が残る。	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価(課題等)確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[+]	確認された影響[-]	確認された影響[+]	
	ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

項目	プロット23-1			プロット23-2		
	H26	R5	比較結果等	H26	R5	比較結果等
縦北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
縦東方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
縦南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
縦西方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]

- ・林況に大きな変化はなかった。
- ・高木層のモンゴリナラ、カシワは健全な状態であった。
- ・林床にシカの痕跡が多く、天然更新の確認はやや少なかった。
- ・健全な林分であるが、更新には留意が必要な林分といえる。
- ・シカによる影響を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



モンゴリナラの亜高木

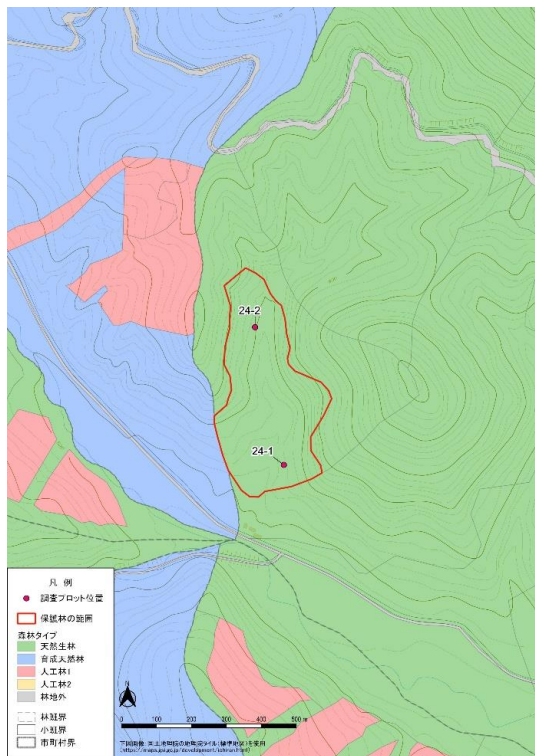
3-3.希少個体群保護林 (4/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
24	31512	置戸アカエゾマツ希少個体群保護林 (13.13ha)	アカエゾマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・高木層にアカエゾマツが発達していた。 ・トドマツおよびアカエゾマツの実生と稚樹が複数みられた。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
25	31601	斜里ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林 (6.00ha)	ダケカンバ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・林況に大きな変化はみられなかった。 ・大径木もみられるなど立木は健全な状態であった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
26	31602	宇登呂キハダ遺伝資源希少個体群保護林 (5.50ha)	キハダ	H30	・森林詳細調査 (2箇所)	・キハダの確認数は少なかった。立木に関しては健全に生育している。 ・キハダの天然更新はやや少なく、留意が必要である。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
27	31603	宇登呂エゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林 (10.79ha)	エゾマツ、トドマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・局所的に風倒木によるギャップがみられるものの、自然攪乱の範囲であり、天然更新もみられる。 ・下層植生のエゾシカ食痕がやや多く、留意が必要である。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
28	31604	宇登呂イチイ遺伝資源希少個体群保護林 (7.65ha)	イチイ	H30	・森林詳細調査 (2箇所)	・枯損木が多く確認された。 ・特にイチイの枯損が多く、天然更新も確認されなかった。 ・シカの痕跡も多く、食害の可能性が高い。 ・モニタリングの頻度を上げ、保護ネット等による保護対策等も検討する。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

24 置戸アカエゾマツ希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名	置戸アカエゾマツ希少個体群保護林				
	アカエゾマツ				
プロットNo	24-1	24-2	24-1	24-2	
旧No	31512-1	31512-2	31512-1	31512-2	
調査日	2018/8/24	2023/7/26	2018/8/24	2023/7/26	
標高	545m	576m	545m	576m	
傾斜方位、傾斜(平均)	W 22°	SE 27°	W 22°	SE 27°	
局所地形	山腹平衡斜面		山腹浸食面		
林分状況	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、トドマツ	
	【高】樹高	20m以上	22~27m	20m以上	22~27m
	【高】植被率	-	90%	-	70%
	【高】DBH	20~30cm	15~35cm	20~30cm	15~44cm
	【中】主要構成樹種	なし	なし	なし	なし
	【中】樹高	-	0%	-	0%
	【中】植被率	-	-	-	-
	【中】DBH	-	-	-	-
	【低】主要構成樹種	なし	なし	なし	トドマツ
	【低】樹高	-	0%	-	2~3m
【低】植被率	-	-	-	10%	
【低】DBH	-	-	-	1~3cm	
最大樹高樹種	-	アカエゾマツ	-	トドマツ	
樹高	-	27.2m	-	27.4m	
最大直径樹種	-	アカエゾマツ	-	トドマツ	
直径	-	34.8cm	-	44.2cm	
保護対象種の本数割合	50~80%	80%以上	50~80%	50~80%	
気象害	風害(中)	風害(軽微)	風害(中)	風害(中)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	風倒木多い	-	風倒木多い	風倒木多い	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡、糞	シカ道、糞	糞、食痕	
	その他痕跡	-	-	ヒグマ(食痕)	
痕跡の程度	軽微	軽微	小	軽微	
痕跡のコメント	-	シカの影響は少ない	林道沿いにフキのクマ食痕、オシダにシカ食痕あり	オシダにシカ食痕あり	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	その他	その他	各種混在	
	優占する植物種	コケ類、トドマツ	コケ類、トドマツ	ゴゼンタチバナ、トドマツ	
	植被率	-	5%	-	70%
植生高	-	0.1~0.2m	-	0.1~1.3m	
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種 多い	保護対象種の天然更新が少ない、見られない	保護対象種 少ない	
保護林の状況	トドマツ、アカエゾマツ実生がコケ上に見られるが、幼木まで成長しているものは見られない。	アカエゾマツが高木層に発達し、亜高木層以下はほとんどない。林床のコケ上にアカエゾマツ、トドマツ等の実生、稚樹が多く見られる。	トドマツの実生、稚樹は豊富に見られるが、アカエゾマツの天然更新は見られない。	風倒によるギャップが目立つ。林床は広範囲でトドマツの稚樹、幼木が見られる。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

項目	プロット24-1			プロット24-2		
	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
縦北方向			風倒木がわずかにみられるが、影響は軽微。			大きな変化はない。
縦東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
縦南方向			大きな変化はない。			風倒によるギャップがみられるが、影響は少ない。
縦西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		風倒によるギャップがみられるが、影響は少ない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・高木層にアカエゾマツが発達し、亜高木層以下にはほとんど樹木がみられなかった。
- ・風倒木で生じたギャップや林床のコケ上などにトドマツおよびアカエゾマツの実生と稚樹が複数みられ、良好な林分といえる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

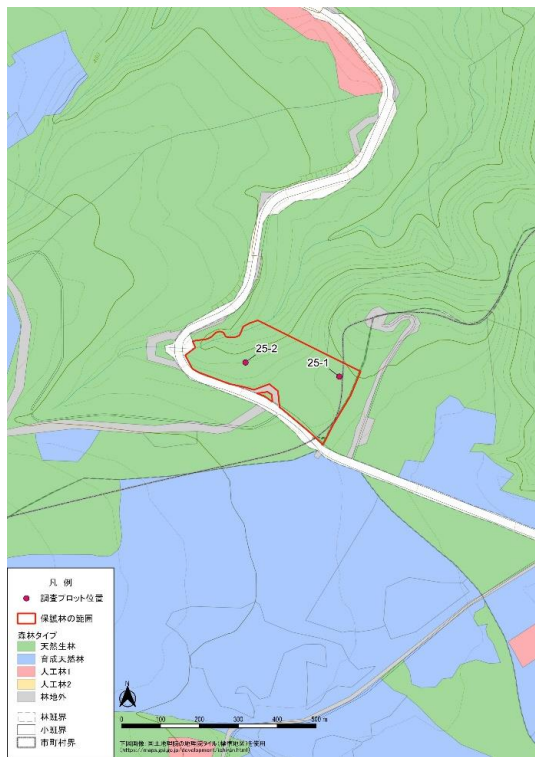


アカエゾマツの実生

25 斜里ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



斜里ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林					
ダケカンバ					
保護林名	斜里ダケカンバ遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種	ダケカンバ				
プロットNo.	25-1	25-2	31601-1	31601-2	
IDNo.	25-1	25-2	31601-1	31601-2	
調査日	2018/8/8	2023/6/22	2018/8/8	2023/6/22	
プロット情報	標高	502m	472m		
	斜面方位、傾斜(平均)	SW5°	NW10°		
	局所地形	平均尾根	山腹平衡斜面		
林分状況	【高】主要構成樹種	ダケカンバ	ダケカンバ、ミズナラ	トドマツ、エゾマツ	エゾマツ、トドマツ
	【高】樹高	20m以上	9~17m	20m以上	20~28m
	【高】樹冠率	-	70%	-	80%
	【高】DEH	20~30cm	18~57cm	30cm以上	30~90cm
	【中】主要構成樹種	ダケカンバ、ミズナラ	ミズナラ	ナナカマド、トドマツ	ダケカンバ、ナナカマド
	【中】樹高	5~10m	7m	10m以上	8~16m
	【中】樹冠率	-	10%	-	50%
	【中】DEH	10~20cm	10cm	10~20cm	10~20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	1~5m	2m	1~5m	2m
【低】樹冠率	-	5%	-	1%	
【低】DEH	5cm未満	5cm	5cm未満	5m	
鳥獣類痕跡	最大樹高樹種	-	ダケカンバ	-	エゾマツ
	樹高	-	172m	-	28.0m
	最大直径樹種	-	ダケカンバ	-	ダケカンバ
	直径	-	56.8cm	-	80.0cm
	保護対象種の木数割合	50~80%	80%以上	20%以下	20~50%
気象害	-	-	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	-	角研ぎ	-
	その他痕跡	-	-	-	-
痕跡の程度	-	-	-	-	
痕跡のコメント	-	-	角研ぎ痕は古い	-	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹冠率	密生	100%	密生	100%
	植生高	1.5m以上	01~1.7m	密生	01~1.8m
天然更新状況	保護対象種の低木の天然更新が少なく、見られない	林床はササが密生しており、ダケカンバの天然更新は見られないが、立木の生育は健全である。	トドマツ、エゾイタヤ、ミズナラなどが多い。	大径木が多く、立木は健全である。林床はササが密生しており、ダケカンバの天然更新は見られないが、重高木層は旺盛である。	
保護林の状況	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 -:特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
林況写真					

プロット25-1				プロット25-2			
項目	H30	R5	比較結果等	項目	H30	R5	比較結果等
撮北方向			大きな変化はない。	撮北方向			大きな変化はない。
撮東方向	写真なし		大きな変化はない。	撮東方向	写真なし		大きな変化はない。
撮南方向			大きな変化はない。	撮南方向			大きな変化はない。
撮西方向	写真なし		大きな変化はない。	撮西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。	天頂			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・林況に大きな変化はみられなかった。
- ・大径木もみられるなど立木は健全な状態であった。
- ・林床の天然更新はササが密生しているため稚樹がほとんどみられないが、亜高木層のダケカンバの生育は健全であり、今後の生長は期待できる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

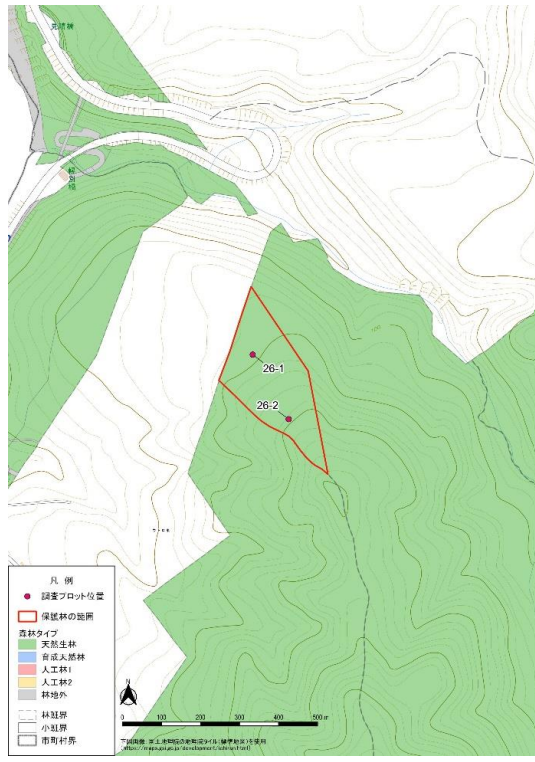


ダケカンバ大径木

26 宇登呂キハダ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

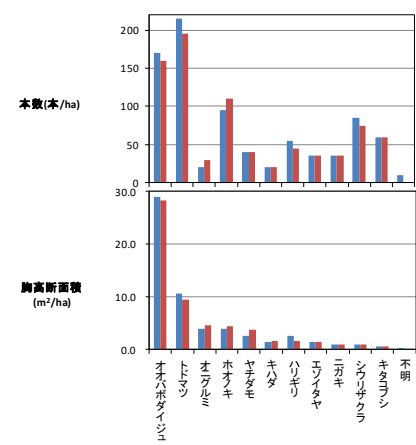
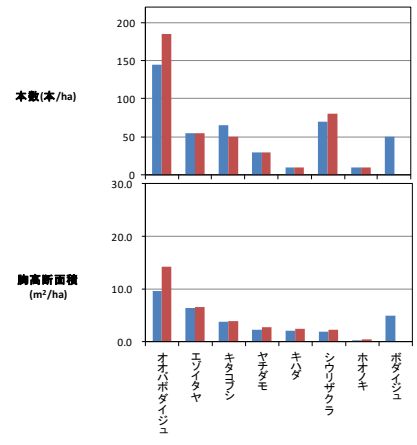


プロット26-1

プロット16-2

項目	プロット26-1		比較結果等	プロット16-2		比較結果等
	H30	R5		H30	R5	
磁北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		一部風倒が確認されたが、被害というほどではない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

保護林名	宇登呂キハダ遺伝資源希少個体群保護林				
	キハダ				
保護対象種	26-1		26-2		
プロットNo.	31802-1		31802-2		
旧No.	-		-		
調査日	2018/8/9	2023/8/1	2018/8/9	2023/8/1	
標高	200m		168m		
プロット情報	傾斜方位: 経斜平均 NW 8°		傾斜方位: 山腹平準斜面 NW 18°		
局所地形	山腹平準斜面		山腹平準斜面		
林分状況	【高】主要構成樹種	オオハボダイジュ	オオハボダイジュ	オオハボダイジュ	オオハボダイジュ
	【中】樹高	18~22m	17~22m	17~24m	18~27m
	【高】樹冠率	80%	80%	80%	80%
	【高】DBH	25~77cm	27~78cm	19~85cm	19~85cm
	【中】主要構成樹種	シワリザクラ, キタコブシ	シワリザクラ, キタコブシ	トドマツ	トドマツ
	【中】樹高	7~16m	8~16m	8~16m	9~16m
	【中】樹冠率	20%	10%	10%	10%
	【中】DBH	10~24cm	10~25cm	14~20cm	14~20cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ, トドマツ	エゾイタヤ	トドマツ, シワリザクラ	トドマツ, シワリザクラ
	【低】樹高	3~7m	3~7m	2~6m	2~8m
【低】樹冠率	5%	5%	1%	1%	
【低】DBH	3~8cm	3~8cm	2~6cm	2~7cm	
最大樹高樹種	オオハボダイジュ	オオハボダイジュ	オオハボダイジュ	オオハボダイジュ	
樹高	22.9m	24.9m	24.9m	27.9m	
最大直径樹種	エゾイタヤ	エゾイタヤ	オオハボダイジュ	オオハボダイジュ	
直径	77.8cm	72.2cm	82.3cm	85.0cm	
保護対象種の木数割合	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下	
気象害	-	風害(小)	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	トドマツ風倒木あり	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	糞, 食痕	角研ぎ	シカ道, 足跡, 糞
	その他痕跡	-	-	軽微	軽微
	痕跡の程度	-	-	-	軽微
	痕跡のコメント	-	古いシカのトドマツ剥皮あり	-	シカ食痕は見られない
林床植生	主要構成種 (主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	覆土する植物種	ツツリクサ, オオハバヤモク	ツツリクサ, ツツリクサ	コノハシクサ, ツツリクサ	ツツリクサ, クラムハバヤモク
	樹冠率	90%	80%	80%	70%
	植生高	0.1~0.4m	0.1~0.4m	0.1~0.5m	-
	天然更新状況	保護対象種の木の天然更新が少い, 見られない	保護対象種以外: 普通	保護対象種の木の天然更新が少い, 見られない	保護対象種: 少ない 保護対象種以外: 普通
保護林の状況	キハダは大径木が点在し, 天然更新は見られない。	キハダは高木層に少数見られる。キハダ, オオハボダイジュ, ニガキ, ヤチダモ, トドマツ等多数の木種, 雑樹が見られる。	キハダは大径木が点在し, 天然更新は見られない。	キハダは高木層に少数見られる。キハダ, オオハボダイジュ, ニガキ, コノハシクサ, ヤチダモ, キタコブシ等多数の木種, 雑樹が見られる。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 盗伐化 オ 自然災害 カ その他	ア 野鳥イ 病虫害 ウ 外来種 エ 盗伐化 オ 自然災害 カ その他	ア 野鳥イ 病虫害 ウ 外来種 エ 盗伐化 オ 自然災害 カ その他	ア 野鳥イ 病虫害 ウ 外来種 エ 盗伐化 オ 自然災害 カ その他	ア 野鳥イ 病虫害 ウ 外来種 エ 盗伐化 オ 自然災害 カ その他
林況写真					



確認された影響[特になし]

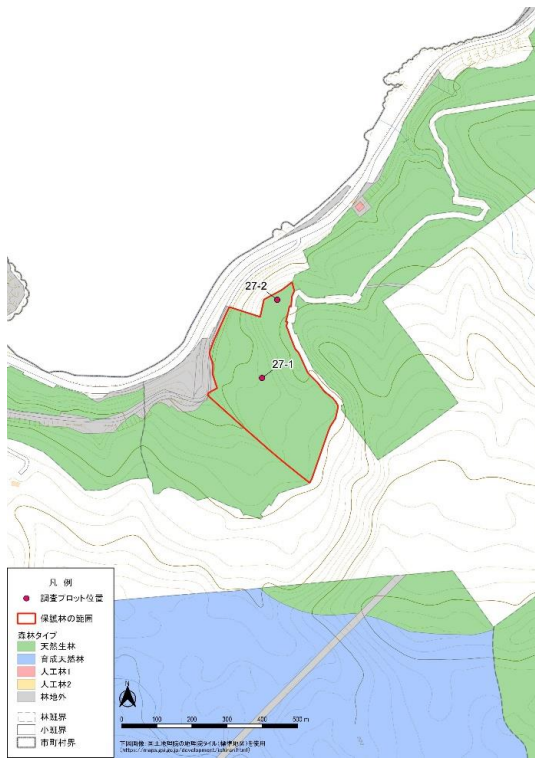
- ・キハダの確認数は少なかったが、立木に関しては健全に生育している。
- ・キハダの天然更新はやや少なく、留意が必要である。
- ・更新状況を注視しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

キハダの稚樹

27 宇登呂エゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		宇登呂エゾマツ等遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		エゾマツ, トドマツ			
プロットNo.		27-1		27-2	
IDNo.		31603-1		31603-2	
調査日		2018/8/9		2023/7/4	
標高		78m		104m	
新築方位、傾斜(平均)		SW 11°		NE 5°	
局所地形		山腹平衡斜面		台地	
林分状況	【高】主要構成樹種	エゾマツ, トドマツ	エゾマツ	ミズナラ, トドマツ	トドマツ, ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	22~27m	20m以上	16~26m
	【高】樹枝率	-	70%	-	70%
	【高】DBH	20~30cm	38~78cm	20~30cm	17~69cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ, シナノキ	トドマツ
	【中】樹高	5~10m	7~14m	5~10m	9~13m
鳥獣類痕跡	【中】樹枝率	40%	40%	10%	10%
	【中】DBH	10~20cm	7~18cm	10~20cm	14~20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ	トドマツ	トドマツ, キタコブシ
	【低】樹高	1~5m	2~5m	1~5m	2~5m
	【低】樹枝率	10%	10%	5%	5%
	【低】DBH	5cm未満	2~6cm	5cm未満	1~7cm
鳥獣類痕跡	最大樹高樹種	エゾマツ	エゾマツ	エゾマツ	トドマツ
	樹高	-	27.2m	-	25.5m
	最大直径樹種	エゾマツ	エゾマツ	エゾマツ	ミズナラ
	直径	-	78.0cm	-	69.1cm
鳥獣類痕跡	保護対象種の本数割合	80%以上	50~80%	50~80%	50~80%
	気象害	風害(中)	風害(中)	風害(中)	風害(中)
	病虫害	-	-	-	-
	気象害等のコメント	局所的に風倒木あり	プロット上部に風倒れによるギャップあり	局所的に風倒木あり	局所的に風倒木あり
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	足跡、糞	糞、角研ぎ	足跡、糞	シカ道、角研ぎ、食痕
	その他痕跡	-	小	-	ホズミ類(食痕)
林床植生	痕跡の程度	-	軽微	-	軽微
	痕跡のコメント	エゾシカの利用が見られるが、被害はない	エゾシカ越冬地として利用している可能性あり	エゾシカの利用が見られるが、被害はない	シカのオシダ食痕あり
	主要構成種(主伐は80%以上)	草本類主体	その他、コケ類	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	オクヤマシダ	オクヤマシダ、コケ類	ミミコウモリ	ミミコウモリ、シラネウラボ
保護林の状況	樹高	0.5~1.5m	0.1~0.4m	0.5~1.5m	0.1~1.3m
	天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種 普通更新がある	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種 少ない
	保護林の状況	エゾマツ、トドマツの他にアカエゾマツの大径木も見られる。	風穴上に成立した針葉樹林。エゾマツの実生は倒木上に少数、トドマツの天然更新は多く見られる。	低木層にトドマツが多い。	エゾマツはプロット外に1本のみ、トドマツは高木層から低木層まで見られる。シカの影響に注視が必要だが、林分は健全な状態である。
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア 野生鳥獣	確認された影響【オ】	確認された影響【オ】	確認された影響【オ】	確認された影響【アオ】
	ウ 外来種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真	イ 自然攪乱				
	カ その他				

プロット27-1

プロット27-2

項目	プロット27-1		比較結果等	プロット27-2		比較結果等
	H30	R5		H30	R5	
磁北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		一部に風倒木がみられるが、影響は軽微。	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。			一部に風倒木がみられるが、影響は軽微。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]

- ・本保護林はエゾマツとトドマツの希少個体群の生育地として保護されている森林である。
- ・局所的に風倒木によるギャップがみられるものの、自然攪乱の範囲であり、天然更新もみられる。
- ・下層植生のエゾシカ食痕がやや多く、留意が必要である。
- ・シカによる影響を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

ギャップに生育するトドマツ稚樹

28 宇登呂イチイ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(2箇所)

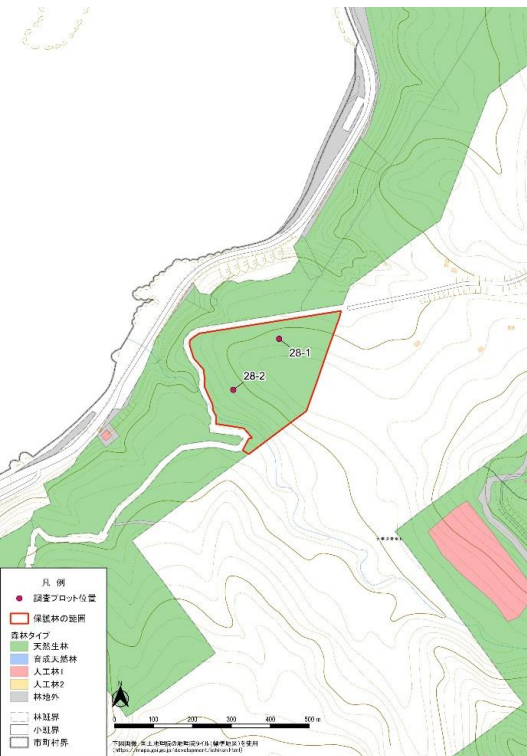
プロット28-1

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

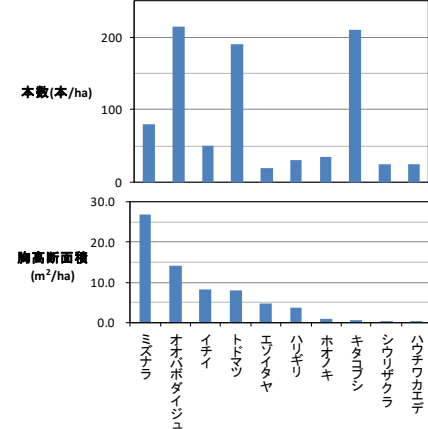
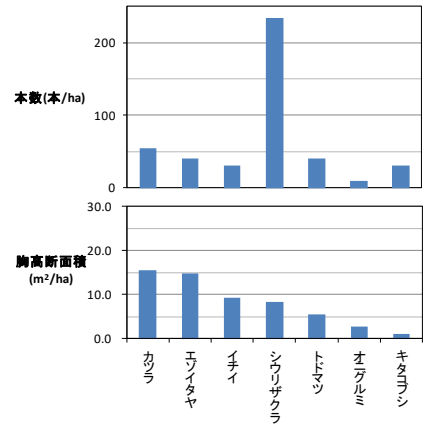
プロット28-2

項目	H30	R5	比較結果等
磁北方向			一部風倒木がみられるが、被害というほどではない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

保護林名	宇登呂イチイ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種	イチイ			
プロットNo.	28-1	28-2		
旧No.	31804-1	31804-2		
調査日	2018/8/9	2023/8/2	2018/8/9	2023/8/2
標高	106m		106m	
プロット情報	N 17°		W 2°	
局所地形	山麓平野斜面		山麓平野斜面	
【高】主要構成樹種	カツラ、ハルニレ	カツラ	ミズナラ、オオハバダイジュ	オオハバダイジュ、ミズナラ
【高】樹高	20m以上	22~29m	20m以上	18~20m
【高】樹冠率	70%	80%	80%	80%
【高】DBH	30cm以上	20~133cm	30cm以上	17~67cm
【中】主要構成樹種	キタコブシ、イチイ	シクリザクラ	イチイ、トドマツ	トドマツ
【中】樹高	10m以上	11~20m	5~10m	9~15m
【中】樹冠率	50%	60%	10%	10%
【中】DBH	10~20cm	9~28cm	10~20cm	14~20cm
【低】主要構成樹種	シクリザクラ	なし	ミズナラ、ハウチワカエデ	トドマツ、キタコブシ
【低】樹高	-	-	1~5m	2~6m
【低】樹冠率	3%	0%	10%	10%
【低】DBH	5cm未満	-	5cm未満	1~13cm
最大樹高樹種	-	カツラ	-	オオハバダイジュ
樹高	-	29.7m	-	29.3m
最大直径樹種	-	カツラ	-	エゾカタヤ
直径	-	133.4cm	-	69.8cm
保護対象種の自然割合	20%以下	20%以下	20%以下	20%以下
気象害	風害(軽微)	風害(小)	-	風害(軽微)
病虫害	-	-	-	-
気象害等のコメント	-	風倒木、枯木の幹折れ少数あり	-	風倒木、枯木の幹折れわずかにあり
鳥獣類痕跡	シカの道、足跡、糞、食痕、その他痕跡	糞、食痕	-	シカの道、足跡、糞、食痕
痕跡の程度	軽微	小	-	中
痕跡のコメント	シカのシクリザクラ食痕あり	シカの剥皮わずかにあり	-	シカの剥皮あり
主要構成種(主体は50%以上)	草本種主体	草本種主体	草本種主体	草本種主体
構成する植物種	ツタウルシ、シダ類	ツタウルシ	オシダ	オシダ
樹冠率	-	80%	樹生または散在	80%
樹高	0.5m未満	0.1~0.4m	0.1~0.5m	0.1~0.5m
天然更新状況	保護対象種の天然更新が少なく、見られない	保護対象種なし	保護対象種の天然更新が少なく、見られない	保護対象種なし
保護対象種以外、普通	保護対象種以外、普通	保護対象種以外、普通	保護対象種以外、普通	保護対象種以外、普通
保護林の状況	低木層は乏しい。イチイとハルニレに防風ネットが巻いてある。	イチイは少数見られや枯木が多い。林床にはトドマツ、ニガキ、ヤブタモ、オオハバダイジュの雑樹が見られる。	イチイはDBH30cm以上、シカ害無し。	イチイは枯木が多いトドマツ、キハダ、オオハバダイジュの雑樹が見られる。
林分等の状況	大きな変化は認められない	シカによる影響あり	大きな変化は認められない	シカによる影響あり
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[+]	確認された影響[-]	確認された影響[+]
ア 野生鳥獣	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
イ 病虫害	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
ウ 外來種	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
エ 工 業 活 動	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
オ 自然攪乱	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
カ その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				



シカによる剥皮



確認された影響[野生鳥獣]

- ・枯損木が多く確認された。
- ・特にイチイの枯損が多く、天然更新も確認されなかった。
- ・シカの痕跡も多く、食害の可能性が高い。
- ・シカの食害に留意しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

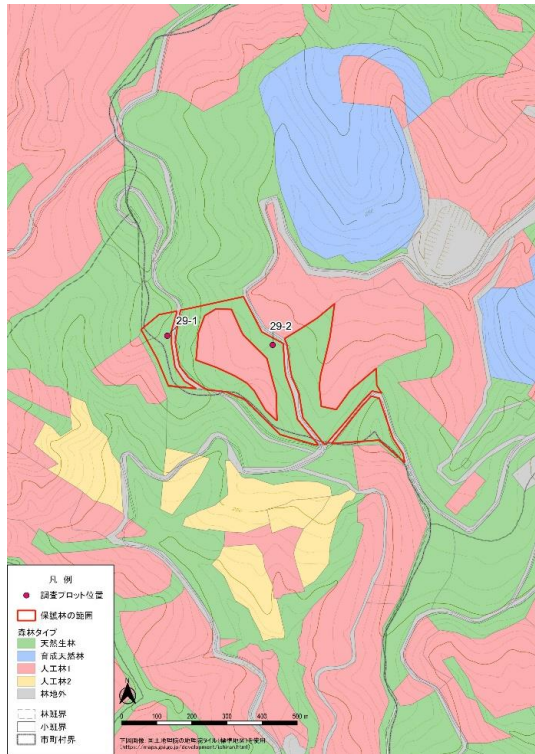
3-3.希少個体群保護林 (5/6)

No	保護林 ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
29	31605	網走ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林 (11.22ha)	ハルニレ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・両プロットともに林床はササが密生しているが、密度が低い箇所では天然更新が少数みられた。 ・亜高木層以上の立木の生育は健全であった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
30	31606	青葉アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林 (40.69ha)	アカエゾマツ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・立木は健全であった。 ・アカエゾマツの実生と稚樹もみられ天然更新は順調に行われている。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
31	31607	宇登呂ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林 (2.41ha)	ミズナラ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・プロット内の立木は健全であった。 ・ミズナラのほか、多数の樹種の実生、稚樹も見られ、天然更新は順調に行われている。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
32	31608	相生ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林 (2.35ha)	ヤチダモ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・ヤチダモのほか、エゾマツ、トドマツが優占しており、立木は健全であった。 ・ヤチダモ及びその他の樹種の実生や稚樹もみられ、天然更新も順調に行われている。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
33	31609	藻琴山ミズナラ希少個体群保護林 (7.1ha)	ミズナラ	H30	・森林概況調査 (2箇所)	・両プロットともに立木は健全であった。 ・低木層以下ではエゾシカの剥皮によると思われる枯死木が散見され、実生と稚樹はわずかにみられる程度であった。 ・ミズナラの天然更新については留意が必要である。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

29 網走ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		網走ハルニレ遺伝資源希少個体群保護林			
保護対象種		ハルニレ			
プロットNo.		29-1		29-2	
IDNo.		31605-1		31605-2	
調査日		2018/8/11		2023/9/26	
標高		336m		271m	
斜面方位、傾斜(平均)		SE 26°		NE 12°	
局所地形		山腹平衡斜面		平坦尾根	
林分状況	【高】主要構成樹種	ハルニレ	ハルニレ	ダケカンバ、シナノキ	シナノキ、ダケカンバ
	【高】樹高	20m以上	16~26m	20m以上	18~24m
	【高】種被率	-	60%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	35~58cm	30cm以上	25~69cm
	【亜】主要構成樹種	シナノキ、ケヤマハンノキ	ハルニレ、エゾイタヤ	トドマツ、シナノキ	トドマツ、ダケカンバ
	【亜】樹高	5~10m	10~16m	5~10m	13~16m
	【亜】種被率	-	20%	-	30%
	【亜】DBH	10~20cm	18~23cm	10~20cm	14~25cm
	【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ、エゾイタヤ	エゾイタヤ	なし	シナノキ、シウリザクラ
	【低】樹高	1~5m	2~7m	-	3~7m
【低】種被率	-	10%	-	10%	
【低】DBH	5cm未満	2~5cm	-	4~5m	
最大樹高樹種	-	ハルニレ	-	シナノキ	
樹高	-	26.2m	-	24.2m	
最大直径樹種	-	ハルニレ	-	シナノキ	
直径	-	57.6cm	-	68.6cm	
保護対象種の本数割合	-	50~80%	-	20%以下	
気象害	-	-	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	足跡	-	シカ道、足跡、糞	糞、食痕、骨
	その他痕跡	-	クマガイ(食痕)	-	小
	痕跡の程度	軽微	-	中	小
痕跡のコメント	-	-	トドマツ低木にシカの角筈、ササ食痕あり	シカのササ食痕あり	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	各種混在
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ、フッキソウ	クマイザサ、フッキソウ
	種被率	密生	60%	密生	60%
	植生高	0.5~1.5m	0.1~0.7m	0.5m未満	0.1~1.0m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	
保護林の状況	ハルニレは多いが、実生は見られない。トドマツの強い箇所もあり、一部で混交している。	ハルニレは多く見られ、個体数も多いが、天然更新はプロット外の萌芽のみ。その他の樹種の天然更新は少数見られる。	ハルニレはほとんど見られない。	ハルニレの個体数は少ない。ササの薄い箇所ではその他の樹木の实生、種樹が見られる。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット29-1

プロット29-2

項目	プロット29-1			プロット29-2		
	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
楕北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
楕東方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
楕南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
楕西方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。



林床の様子

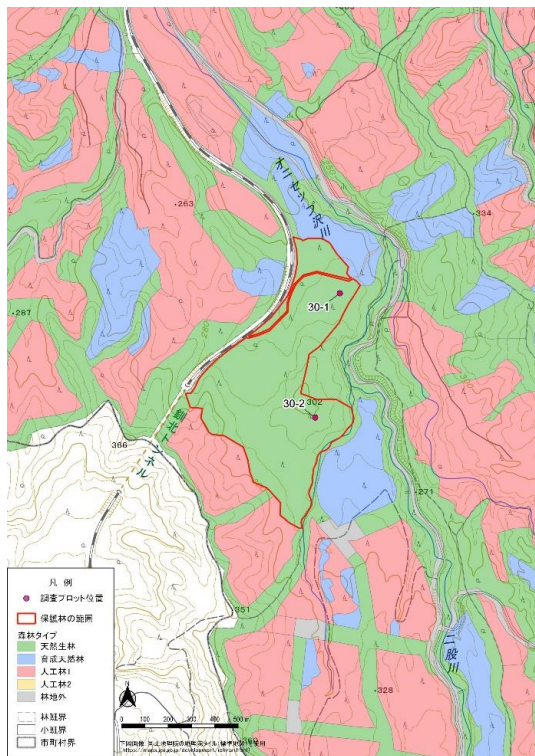
確認された影響[特になし]

- ・プロット29-1はハルニレが優占し概ね健全であった。プロット29-2はシナノキとダケカンバが優占し、ハルニレの個体数は少なかった。
- ・両プロットともに林床はササが密生しているが、密度が低い箇所では天然更新が少数みられた。
- ・亜高木層以上の立木の生育は健全であり、今後の更新は期待できるといえる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

30 青葉アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名	青葉アカエゾマツ遺伝資源希少個体群保護林				
	アカエゾマツ				
保護対象種	アカエゾマツ				
プロットNo.	30-1	30-2			
IDNo.	31606-1	31606-2			
調査日	2018/8/22	2023/7/10	2018/8/22	2023/7/10	
標高	293m		314m		
斜面方位、傾斜(平均)	0°		0°		
局所地形	平坦尾根				
林分状況	【高】主要構成樹種	トドマツ、アカエゾマツ	アカエゾマツ、エゾマツ	アカエゾマツ、トドマツ	アカエゾマツ、トドマツ
	【高】樹高	10~20m	22~28m	20m以上	20~27m
	【高】植被率	-	80%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	25~54cm	30cm以上	25~48cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ、アカエゾマツ	トドマツ、ハウチワカエデ	トドマツ
	【中】樹高	5~10m	10~20m	5~10m	12~18m
	【中】植被率	-	20%	-	40%
	【中】DBH	10~20cm	13~26cm	10~20cm	10~28cm
	【低】主要構成樹種	エゾイタヤ、トドマツ	トドマツ、オガラバナ	トドマツ、ハウチワカエデ	トドマツ、ハウチワカエデ
	【低】樹高	1~5m	2~7m	1~5m	2~10m
【低】植被率	-	60%	-	40%	
【低】DBH	5cm未満	1~5cm	5cm未満	1~6cm	
最大樹高樹種	-	アカエゾマツ	-	アカエゾマツ	
樹高	-	28.0m	-	27.0m	
最大直径樹種	-	アカエゾマツ	-	アカエゾマツ	
直径	-	55.0cm	-	48.0cm	
保護対象種の本数割合	20%以下	20~50%	ほとんど見られない	50~80%	
気象害	風害(小)	風害(軽微)	-	風害(軽微)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	風害による幹折れあり	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、足跡	シカ道、角研ぎ、食痕	食痕、目視	-
	その他痕跡	-	-	-	-
痕跡の程度	大	中	軽微	軽微	-
痕跡のコメント	シカのヤマドリゼンマイ食痕多数あり	シカのヤマドリゼンマイ食痕多数あり	シカのヤマドリゼンマイ食痕わずかにあり	シカのヤマドリゼンマイ食痕わずかにあり	-
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
	優占する植物種	シラネワラビ	シラネワラビ	シラネワラビ	シラネワラビ
	植被率	-	80%	-	90%
	植生高	-	0.1~1.0m	-	0.1~1.0m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種 少ない	保護対象種の実生の天然更新が見られる	保護対象種 普通	保護対象種以外、普通
保護林の状況	天然更新はトドマツのみ見られる。	アカエゾマツは実生、稚樹、低木も見られ天然更新は順調に行われている。	アカエゾマツの天然更新はごく少ない。トドマツの稚樹は多く見られる。	アカエゾマツは実生、稚樹、低木も見られ天然更新は順調に行われている。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	ア 野生鳥獣	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	イ 病虫害	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真	写真なし	写真なし	写真なし	写真なし	写真なし
	写真なし	写真なし	写真なし	写真なし	写真なし

項目	プロット30-1			プロット30-2		
	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
楕円方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
楕円方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
楕円方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
楕円方向	写真なし		古い風倒木がみられるが、影響は軽微。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・古い風倒木がわずかにみられるものの、立木は健全であった。
- ・アカエゾマツの実生と稚樹もみられ天然更新は順調に行われている。
- ・エゾシカによる下層植生の食痕が散見されるが、主にヤマドリゼンマイを選択的に摂食しており、現状では保護対象種への影響はみられない。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

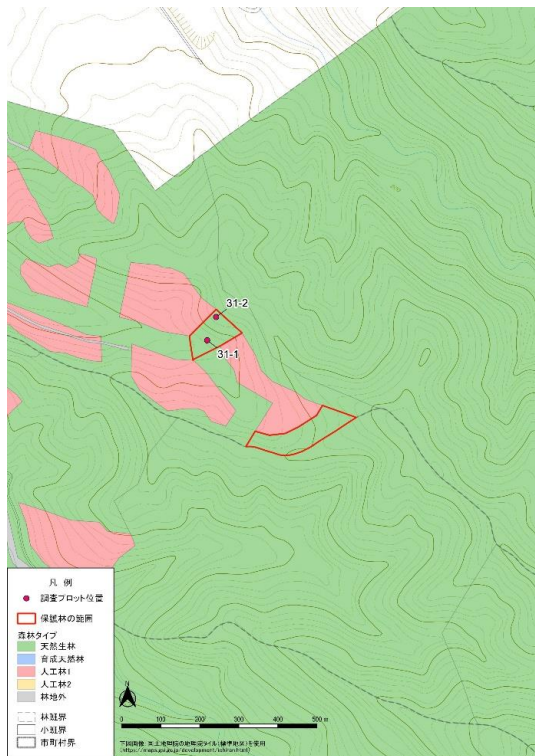


アカエゾマツ稚樹

31 宇登呂ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名				
宇登呂ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種				
ミズナラ				
プロットNo.	31-1		31-2	
IDNo.	31605-1		31605-2	
調査日	2014/10/1		2023/7/31	
調査日	2014/10/1		2023/7/31	
標高	298m		326m	
斜面方位、傾斜(平均)	SW 23°		SW 32°	
局所地形	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ、トドマツ	ミズナラ、トドマツ	ミズナラ、トドマツ
	【高】樹高	10~20m	15~18m	10m未満
	【高】樹被率	-	70%	80%
	【高】DBH	30cm未満	30~88cm	20cm未満
	【中】主要構成樹種	トドマツ	ハウチワカエデ、トドマツ	なし
	【中】樹高	5~10m	5~10m	-
	【中】樹被率	-	30%	0%
	【中】DBH	10~20cm	9~15cm	-
	【低】主要構成樹種	ミズナラ、トドマツ	トドマツ	トドマツ
	【低】樹高	1~5m	2~3m	2~3m
【低】樹被率	-	20%	40%	
【低】DBH	1~5cm	1~5cm	3~5cm	
最大樹高樹種	トドマツ	トドマツ	エゾイタヤ	
樹高	18.8m	18.2m	9.5m	
最大直径樹種	ミズナラ	ミズナラ	トドマツ	
直径	83.7cm	88.2cm	17.7cm	
保護対象種の本数割合	50~80%	20~50%	20~50%	
気象害	風害(軽微)	風害(中)	-	
病虫害	-	-	-	
気象害等のコメント	-	トドマツ幹折れ、風倒あり	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	糞	糞
	その他痕跡	クマガラ(ねぐら木)	-	クマガラ(食痕)
	痕跡の程度	軽微	軽微	軽微
	痕跡のコメント	-	-	-
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	ササ類主体
	優占する植物種	ゴンゲンソウ、トドマツ	スゲ属、ツタウルシ	クマイザサ、フッキソウ
	樹被率	80%	70%	10%
	植生高	-	0.1~1.0m	0.1~0.3m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種、普通	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種、普通
保護林の状況		-	風倒によるギャップが見られるが、立木の生育は健全である。保護対象種のミズナラは実生、稚樹が多数見られ、天然更新は順調に行われている。	林齢が若いため大径木は無く、全体的に密生している。ミズナラは実生、稚樹が見られ、天然更新は順調に行われている。
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	評価・課題等確認された影響	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真				

プロット31-1				プロット31-2			
項目	H26	R5	比較結果等	H26	R5	比較結果等	
南北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。	
縦東方向			風倒木が見られる。			大きな変化はない。	
縦南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。	
縦西方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。	
天頂			大きな変化はない。			樹被率の増加が見られる。	

確認された影響[特になし]

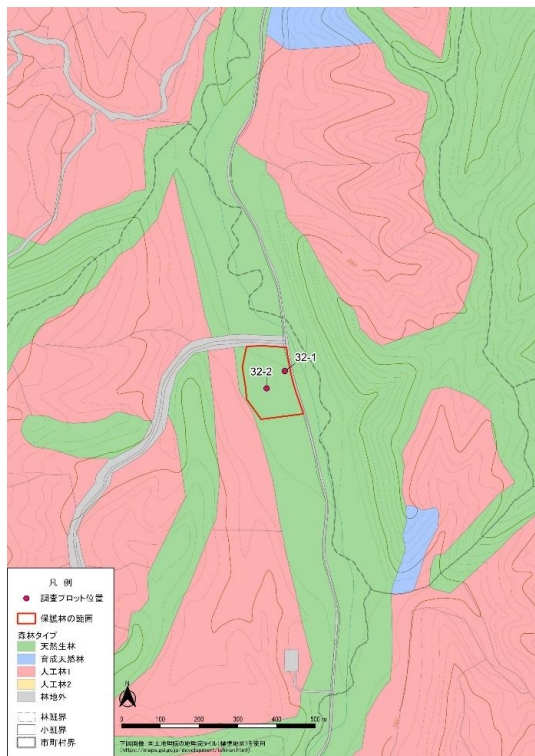
- ・プロット内の立木は健全であった。
- ・ミズナラのほか、多数の樹種の実生、稚樹も見られ、天然更新は順調に行われている。
- ・トドマツの幹折れや風倒によるギャップが中程度みられるものの自然撓乱の範囲であり、林分への影響は少ないと考えられる。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

ミズナラ稚樹

32 相生ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



相生ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林					
保護林名	相生ヤチダモ遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種	ヤチダモ				
プロットNo.	32-1	31608-1	32-2	31608-2	
調査日	2018/6/27	2023/7/24	2018/6/27	2023/7/24	
プロット情報	標高	298m		334m	
	斜面方位、傾斜(平均)			NE 2°	
	局所地形	湿地			
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ、エゾマツ	ヤチダモ、エゾマツ	ヤチダモ、トドマツ	ヤチダモ、エゾマツ
	【高】樹高	20m以上	19~28m	20m以上	20~28m
	【高】樹被率	-	80%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	16~42cm	30cm以上	18~40cm
	【中】主要構成樹種	ヤチダモ、トドマツ	ヤチダモ、トドマツ	ヤチダモ、エゾマツ	ヤチダモ、エゾマツ
	【中】樹高	10m以上	10~17m	10m以上	9~18m
	【中】樹被率	-	40%	-	40%
	【中】DBH	10~20cm	6~18cm	10~20cm	7~20cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	トドマツ、ハシドイ	トドマツ	トドマツ、エゾマツ
	【低】樹高	5m以上	2~8m	5m以上	3~8m
【低】樹被率	-	40%	-	30%	
【低】DBH	5~10cm	2~6cm	5~10cm	2~7cm	
最大樹高	-	ヤチダモ	-	トドマツ	
樹高	-	28.0m	-	11.0m	
最大直径	-	エゾマツ	-	トドマツ	
直径	-	42.0cm	-	18.0cm	
保護対象種の本数割合	20~50%	50~80%	20~50%	50~80%	
気象害	風害(軽微)	風害(軽微)	風害(小)	風害(軽微)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	風倒木はエゾマツ、トドマツで古い	-	風倒木はエゾマツ、トドマツで古い	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕	シカ道、糞、角研ぎ、食痕	食痕	足跡、角研ぎ、食痕
	その他痕跡	-	-	-	-
痕跡の程度	痕跡の程度	軽微	中	軽微	小
	痕跡のコメント	シカのシダ類食痕あり	シカのクサソテツ食痕等多い	-	シカのクサソテツ食痕あり
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	草本類主体	草本類主体	ササ類主体	草本類主体
	優占する植物種	クサソテツ	クサソテツ、スゲ属	クマイザサ、フクソクソ	スゲ属、クサソテツ
	樹被率	疎生または散在	90%	疎生または散在	90%
	植生高	0.5m未満	0.1~0.6m	0.5m未満	0.1~0.5m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種 少ない	保護対象種の実生の天然更新がある	保護対象種 普通	
保護林の状況	トドマツの低木、実生の天然更新が見られる。	ヤチダモの生育は旺盛で、天然更新は実生が少数見られる。	ヤチダモの生育は旺盛で、天然更新が盛んである。	ヤチダモの生育は旺盛で、天然更新は実生が少数見られる。エゾマツ、トドマツの稚樹、低木も多い。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
林況写真					

プロット32-1

プロット32-2

項目	プロット32-1			プロット32-2		
	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
撮北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
撮東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
撮南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
撮西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・ヤチダモのほか、エゾマツ、トドマツが優占しており、立木は健全であった。
- ・ヤチダモ及びその他の樹種の実生や稚樹もみられ、天然更新も順調に行われている。
- ・エゾシカによる下層植生の食痕が散見されるが、主にクサソテツを摂食しており、現状では保護対象種への影響はみられなかった。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

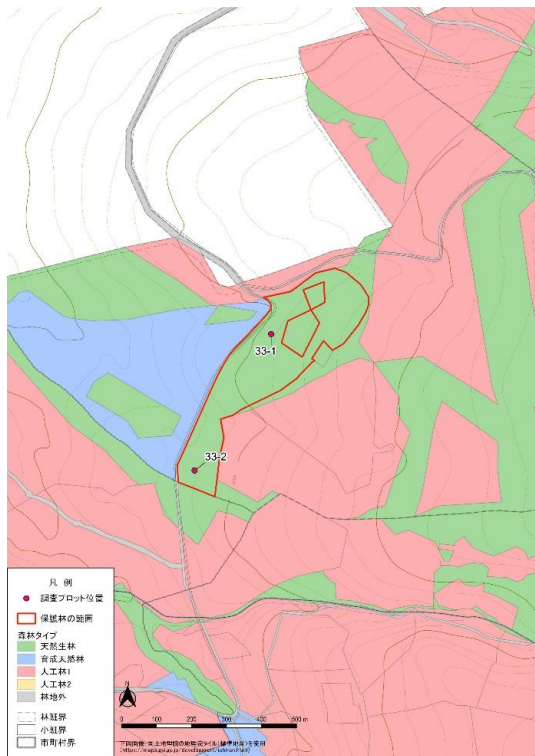


亜高木層の様子(ヤチダモ、トドマツ等)

33 藻琴山ミズナラ希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



藻琴山ミズナラ希少個体群保護林					
保護林名					
保護対象種					
ミズナラ					
プロットNo		33-1		33-2	
IDNo		31609-1		31609-2	
調査日		2018/6/27 2023/8/8		2018/6/27 2023/8/8	
プロット情報		467m		448m	
傾斜(平均)		NW 16°		NW 7°	
局所地形		山腹平衡斜面		山腹平衡斜面	
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
	【高】樹高	10~20m	19~27m	10~20m	20~29m
	【高】樹被率	-	90%	80%	70%
	【高】DBH	20~30m	17~41cm	20~30m	18~45cm
	【中】主要構成樹種	トドマツ	ミズナラ	トドマツ	ダケカンバ
	【中】樹高	5~10m	10~17m	5~10m	14~20m
	【中】樹被率	-	20%	10%	20%
	【中】DBH	10cm未満	6~15cm	10cm未満	13~26cm
	【低】主要構成樹種	トドマツ	ミズナラ	トドマツ、エゾマツ	イスエンジュ
	【低】樹高	1~5m	2~7m	1~5m	3~9m
【低】樹被率	-	10%	10%	30%	
【低】DBH	5cm未満	2~4cm	5cm未満	3~8cm	
最大樹高樹種	-	ミズナラ	-	ミズナラ	
樹高	-	27.0m	-	29.0m	
最大直径樹種	-	ミズナラ	-	ミズナラ	
直径	-	41.0cm	-	45.0cm	
保護対象種の本数割合	80%以上	80%以上	80%以上	50~80%	
気象害	-	-	風害(小)	風害(小)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	トドマツ、エゾマツに根返りあり	風倒によるギャップあり	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	角研ぎ、食痕	食痕	食痕
	その他痕跡	-	-	-	小
	痕跡の程度	-	小	軽微	小
痕跡のコメント	-	シカのササ、頂草食痕あり	シカのナナカマド食痕あり	シカ剥皮による枯死あり	
林床植生	主要構成種(主体(80%以上))	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹被率	密生	100%	密生	100%
	植生高	0.5~1.5m	0.1~1.4m	0.5~1.5m	0.1~1.4m
天然更新状況	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種 少ない	保護対象種の実生の天然更新が少ない、見られない	保護対象種 少ない	
保護林の状況	保護対象種以外 少ない <td>保護対象種以外 少ない</td> <td>保護対象種以外 少ない</td> <td>保護対象種以外 少ない</td>	保護対象種以外 少ない	保護対象種以外 少ない	保護対象種以外 少ない	
	保護対象種以外 少ない <td>保護対象種以外 少ない</td> <td>保護対象種以外 少ない</td> <td>保護対象種以外 少ない</td>	保護対象種以外 少ない	保護対象種以外 少ない	保護対象種以外 少ない	
林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[ア]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	
	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
林況写真					

プロット33-1				プロット33-2			
項目	H30	R5	比較結果等	項目	H30	R5	比較結果等
南北方向			大きな変化はない。	南北方向			大きな変化はない。
縦東方向	写真なし		大きな変化はない。	縦東方向	写真なし		大きな変化はない。
縦南方向			大きな変化はない。	縦南方向			風倒木がみられるが、影響は少ない。
縦西方向	写真なし		大きな変化はない。	縦西方向	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。	天頂			大きな変化はない。

確認された影響[野生鳥獣]

- ・両プロットともに立木は健全であった。
- ・低木層以下ではエゾシカの剥皮によると思われる枯死木が散見され、実生と稚樹はわずかにみられる程度であった。
- ・概ね健全な林分であるが、ミズナラの天然更新については留意が必要である。
- ・シカによる影響を注視つつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

ミズナラ低木の立ち枯れ(プロット33-2)

3-3.希少個体群保護林 (6/6)

No	保護林ID	保護林名	保護対象	前回調査	今回の調査方法等	調査林分の状況等	調査周期	評価・課題・対応(案)
34	31610	女満別湿性植生希少個体群保護林 (38.19ha)	湿性植生	H30	・森林詳細調査(4箇所) ・動物調査(鳥類)(4箇所)	・大きな変化はなく天然更新も確認された。プロットによっては一部ハムシによる食害がみられたが、影響は小さいと考えられる。 ・ミズバショウの生育は良好であった。 ・鳥類調査ではタンチョウなどのほか、オジロワシの営巣が確認された。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
35	31611	美咲地区海岸砂丘林希少個体群保護林 (41.09ha)	ミズナラを主体とする広葉樹	H30	・森林概況調査(2箇所)	・大きな変化はなく、天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
36	31612	木禽岳アカエゾマツ希少個体群保護林 (108.59ha)	アカエゾマツ	H30	・森林概況調査(2箇所)	・両プロットともに立木は健全であった。 ・保護林内全域においてエゾシカの痕跡が多く確認された。 ・林内にはエゾノチチコグサなどの希少種も多く、アカエゾマツの更新にも影響が考えられるのでシカの食害には留意が必要である。	5年	確認された影響[野生鳥獣] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。
37	31613	浜小清水ヤチダモ等希少個体群保護林 (57.28ha)	ヤチダモを主体とする広葉樹	H30	・森林概況調査(2箇所)	・天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。	5年	確認された影響[特になし] ・引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

34 女満別湿性植生希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林詳細調査(4箇所)、動物調査(鳥類)(4箇所)

確認された鳥類一覧

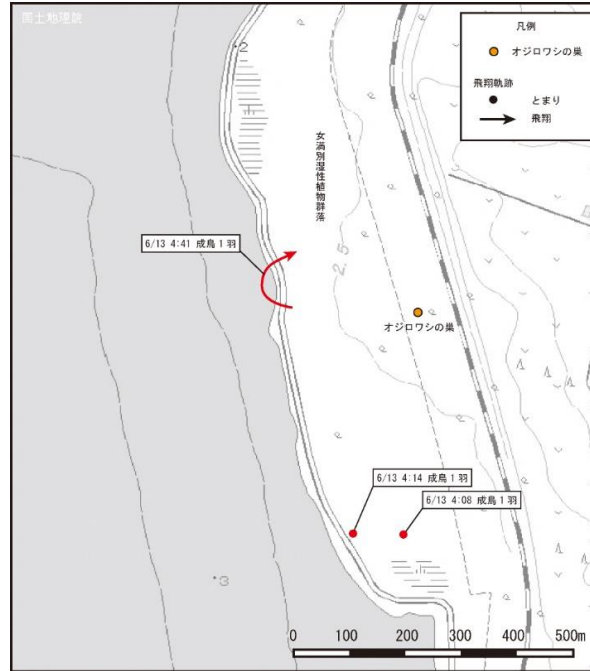
No.	目名	科名	和名	学名	重要種選定基準			
					1	2	3	4
1	カモ	カモ	オシドリ	<i>Aix galericulata</i>			DD	Nt
2	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>				
3	ツル	ツル	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>	特天	国内	VU	Vu
4	カッコウ	カッコウ	ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>				
5			カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>				
6	タカ	タカ	トビ	<i>Milvus migrans</i>				
7			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	国天	国内	VU	Vu
8	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>				
9			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>				
10	スズメ	カラス	ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>				
11			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>				
12		シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>				
13		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>				
14		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>				
15		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>				
16		ムシクイ	オオムシクイ	<i>Phylloscopus examinatus</i>			DD	
17			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>				
18		ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>				
19		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>				
20		ヒタキ	クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>				
21			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>				
22		スズメ	ニューナイスズメ	<i>Passer rutilans</i>				
23		アトリ	ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>				
24		ホオジロ科	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>				
計	7目	18科	24種		2種	2種	4種	3種

注1) 種名及び学名は日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012)に準拠した。

注2) 重要種選定基準および各基準の指定ランクの略記号の説明は以下のとおりである。

- 1「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)、「北海道文化財保護条例」(昭和30年 北海道条例第83号)
特天: 特別天然記念物(国指定)、国天: 天然記念物(国指定)、道天: 天然記念物(道指定)
- 2「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)
国内: 国内希少野生動植物種、緊急: 緊急指定種
- 3「環境省レッドリスト2020」(令和2年 環境省)
EX: 絶滅、EW: 野生絶滅、OR: 絶滅危惧 I A類、EN: 絶滅危惧 I B類、VU: 絶滅危惧 II 類、NT: 準絶滅危惧、LP: 絶滅のおそれのある地域個体群、DD: 情報不足
- 4「北海道レッドリスト【鳥類編】2017」(平成29年 北海道)
Ex: 絶滅、Ew: 野生絶滅種、Or: 絶滅危惧 I A類、En: 絶滅危惧 I B類、Vu: 絶滅危惧 II 類、Nt: 準絶滅危惧、N: 留意、Lp: 絶滅のおそれのある地域個体群、Dd: 情報不足

オジロワシ確認位置図



6/13 午前4:08 オジロワシ成鳥



6/13 午前4:14 オジロワシ成鳥

確認された影響[特になし]

- ・本保護林は、網走湖畔湿性地に大規模に群生するミズバショウ、ハンノキ、ヤチダモの生育地として保護されている森林である。
- ・大きな変化はなく天然更新も確認された。プロットによっては一部ハムシによる食害がみられたが、影響は小さいと考えられる。
- ・ミズバショウの生育は良好であった。
- ・鳥類調査ではタンチョウなどのほか、オジロワシの営巣が確認された。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

35 美咲地区海岸砂丘林希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		美咲地区海岸砂丘林希少個体群保護林			
プロットNo.	35-1	35-2		35-2	
旧No.	30611-1	30611-2		30611-2	
調査日	2018/8/8	2023/6/19	2018/8/8	2023/6/19	2023/6/19
標高	12m	20m		20m	
プロット情報	斜面方位、傾斜(平均)		S 1°		0°
局所地形	沖積堆積地		平坦尾根		
林分状況	【高】主要構成樹種	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ	ミズナラ
	【高】樹高	20m以上	20~28m	20m以上	14~21m
	【高】樹皮率	-	70%	-	80%
	【高】DBH	30cm以上	17~75cm	30cm以上	15~38cm
	【中】主要構成樹種	イタヤカエデ	エゾイタヤ	イタヤカエデ	エゾイタヤ
	【中】樹高	10m以上	7~19m	10m以上	6~11m
	【中】樹皮率	-	10%	-	50%
	【中】DBH	10~20cm	6~16cm	10~20cm	6~15cm
	【低】主要構成樹種	アズキナン、ツリバナ	アズキナン	イタヤカエデ	エゾイタヤ
	【低】樹高	1~5m	2~6m	1~5m	2~5m
【低】樹皮率	-	5%	-	1%	
【低】DBH	5cm未満	2~5cm	5cm未満	2~6cm	
最大樹高樹種	ミズナラ	ミズナラ	-	ミズナラ	
樹高	26.0m	28.1m	-	21.5m	
最大直径樹種	ミズナラ	ミズナラ	-	キハダ	
直径	72.8cm	75.0cm	-	38.0cm	
気象害	-	-	-	-	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	-	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	食痕	-	食痕
	その他痕跡	-	軽微	-	軽微
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹皮率	100%	90%	100%	80%
	植生高	-	0.1~1.0m	-	0.1~0.8m
天然更新状況	普通に見られる	普通に見られる	普通に見られる	普通に見られる	
保護林の状況	保護林の状況	林床はクマイザサが密生するが、各種広葉樹の実生が見られる。	立木の生育は健全であり、ミズナラ、エゾイタヤ等の天然更新も見られる。	林床はクマイザサが密生するが、各種広葉樹の実生が見られる。	立木の生育は健全であり、ミズナラ、エゾイタヤ等の天然更新も見られる。
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他 - 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真	林況写真				
	林況写真				
	林況写真				
	林況写真				

プロット35-1			プロット35-2			
項目	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
縦北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
縦東方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
縦南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

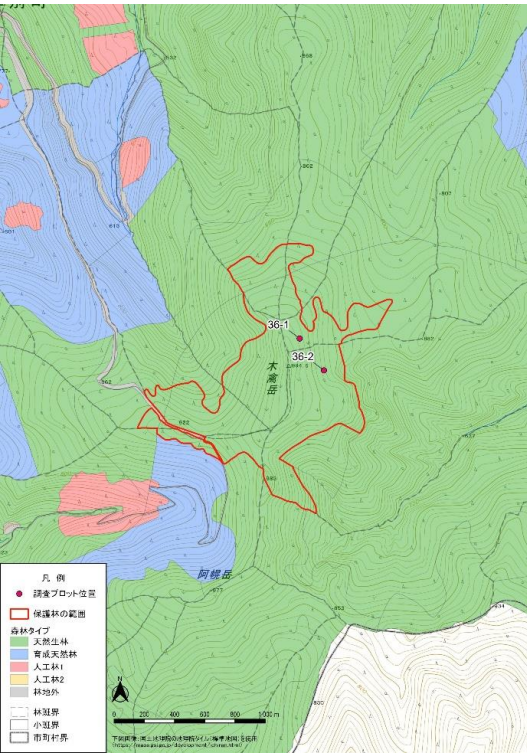
確認された影響[特になし]
 ・本保護林はオホーツク沿岸の海岸砂丘林に自生するミズナラを主体とした広葉樹の生息地として保護されている森林である。
 ・大きな変化はなく、天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。
 ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

保護林の外観

36 木禽岳アカエゾマツ希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		木禽岳アカエゾマツ希少個体群保護林			
保護対象種		アカエゾマツ			
プロットNo.	36-1	36-2	36-1	36-2	
旧No.	31612-1	31612-2			
調査日	2018/8/22	2023/8/8	2018/8/22	2023/8/8	
標高	883m	944m			
局所地形	E 23°		E 21°		
林分状況	山腹平衡斜面		山腹平衡斜面		
	【高】主要構成樹種	アカエゾマツ、ダケカンパ	アカエゾマツ、トドマツ	ダケカンパ、アカエゾマツ	アカエゾマツ、ダケカンパ
	【高】樹高	10~20m	14~20m	10~20m	13~21m
	【高】樹被率	-	80%	-	70%
	【高】DBH	20~30m	8~30cm	20~30m	7~36cm
	【中】主要構成樹種	なし	なし	トドマツ、ナナカマド	トドマツ、ナナカマド
	【中】樹高	-	-	5~10m	4~10m
	【中】樹被率	-	0%	30%	-
	【中】DBH	-	-	10~20cm	3~8cm
	【低】主要構成樹種	なし	なし	なし	なし
	【低】樹高	-	-	-	-
	【低】樹被率	-	0%	-	0%
【低】DBH	-	-	-	-	
最大樹高樹種	-	アカエゾマツ	-	アカエゾマツ	
樹高	-	20.0m	-	21.0m	
最大直径樹種	-	アカエゾマツ	-	アカエゾマツ	
直径	-	30.0cm	-	36.0cm	
保護対象種の本数割合	50~80%	80~90%	20~50%	20~50%	
気象害	-	-	-	風害(軽微)	
病虫害	-	-	-	-	
気象害等のコメント	-	-	-	風倒によるギャップあり	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	シカ道、食痕、目視キツツキ(食痕)	シカ道、糞、角研ぎ	目視	目視
	その他の痕跡	-	軽微	-	-
痕跡の程度	エゾシカの個体4頭確認	アカエゾマツに角研ぎ痕あり	エゾシカの個体4頭確認	エゾシカの個体2頭確認	
林床植生	主要構成種(主体は80%以上)	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体	ササ類主体
	優占する植物種	ミヤコザサ	ミヤコザサ	クマイザサ	クマイザサ
	樹被率	密生	90%	密生	100%
	樹生高	0.5~1.5m	0.1~1.0m	0.5~1.5m	0.1~1.4m
天然更新状況	保護対象種の発生は天然更新が少ない、見られない	保護対象種が少ない	保護対象種の発生は天然更新が少ない、見られない	保護対象種なし	
保護林の状況	高木層に少数エゾマツが混生する。天然更新はエゾマツが多い。	高木層にアカエゾマツが発達しており、亜高木、低木層はほとんどない。トドマツの天然更新は豊富。	アカエゾマツの天然更新は見られず、周辺の天然更新はエゾマツがほとんど。	アカエゾマツの天然更新は見られないが、トドマツのものは少数見られる。	
	林分等の状況	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
	評価・課題等確認された影響	確認された影響[-]	確認された影響[ア]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他 - 特になし	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

プロット36-1			プロット36-2				
項目	H30	R5	比較結果等	項目	H30	R5	比較結果等
楕北方向			大きな変化はない。	楕北方向			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。		写真なし		大きな変化はない。
楕東方向			大きな変化はない。	楕東方向			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。		写真なし		大きな変化はない。
楕南方向			大きな変化はない。	楕南方向			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。		写真なし		大きな変化はない。
楕西方向			大きな変化はない。	楕西方向			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。		写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。	天頂			大きな変化はない。
	写真なし		大きな変化はない。		写真なし		大きな変化はない。



エゾユウタンボク

確認された影響[野生鳥獣]

- ・両プロットともに立木は健全であった。
- ・亜高木層以下の生育状況は良好ではなく、アカエゾマツの更新木はプロット36-1で少数みられる程度であった。
- ・保護林内全域においてエゾシカの痕跡が多く確認された。
- ・林内にはエゾノチチコグサなどの希少種も多く、アカエゾマツの更新にも影響が考えられるのでシカの食害には留意が必要である。
- ・シカの食害に留意しつつ、引き続き巡視・モニタリング等により経過を観察していく。

37 浜小清水ヤチダモ等希少個体群保護林

実施した現地調査

保護林森林概況調査(2箇所)



保護林名		浜小清水ヤチダモ等遺伝資源希少個体群保護林				
保護対象種		ヤチダモ、ミズナラ				
プロットNo		37-1		37-2		
IDNo		31613-1		31613-2		
調査日		2018/8/7		2023/6/20		
プロット情報	標高	7m		11m		
	斜面方位、傾斜(平均)	0°		0°		
	局所地形	平坦地		平坦地		
林分状況	【高】主要構成樹種	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	ヤチダモ	
	【高】樹高	20m以上	18~32m	20m以上	20~25m	
	【高】植被率	-	90%	-	90%	
	【高】DBH	30cm以上	16~72cm	30cm以上	18~60cm	
	【中】主要構成樹種	イタヤカエデ	エゾイタヤ	イタヤカエデ	エゾイタヤ	
	【中】樹高	10m未満	6~14m	10~20m	7~15m	
	【中】植被率	-	70%	-	40%	
	【中】DBH	10~20cm	8~20cm	10~20cm	10~19cm	
	【低】主要構成樹種	ハンノキ、ハシドイ	オオソリハナ	イタヤカエデ	エゾイタヤ	
	【低】樹高	5m以上	2~5m	1~5m	2~5m	
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	-	-	-	-	
	その他痕跡	-	-	-	-	
	痕跡の程度	-	-	-	-	
	痕跡のコメント	-	-	-	-	
	林床植生	主要構成種 (主種(80%以上))	草本類主体	草本類主体	草本類主体	草本類主体
		優占する植物種	エゾイラクサ	オンダ	クサソテツ、フッキソウ	オオアマドコロ
		植被率	100%	90%	90%	80%
		植生高	-	0.1~2.0m	-	0.1~1.0m
	天然更新状況	保護対象種の突生の天然更新がある	保護対象種、普通更新がある	保護対象種の突生の天然更新がある	保護対象種、普通更新がある	
	保護林の状況	林床のササ密度は低く、ヤチダモ、ミズキ、ハイイヌガヤなどの実生が見られる。	ヤチダモは主に高木層で見られ、健全林分である。林床植生は豊富で、天然更新も盛んに行われている。	林床のササ密度は低く、ヤチダモ、ミズキ、ハイイヌガヤなどの実生が見られる。	ヤチダモは主に高木層で見られ、健全林分である。林床植生は豊富で、天然更新も盛んに行われている。	
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	
評価・課題等確認された影響	ア 野生鳥獣 イ 病虫害 ウ 外来種 エ 温暖化 オ 自然攪乱 カ その他 一特になし	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	
	林況写真					

プロット36-1

プロット36-2

項目	プロット36-1			プロット36-2		
	H30	R5	比較結果等	H30	R5	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁東方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。			大きな変化はない。
磁西方向	写真なし		大きな変化はない。	写真なし		大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。			大きな変化はない。

確認された影響[特になし]

- ・本保護林はヤチダモ、ミズナラ等の希少個体群の生育地として保護されている森林である。
- ・天然更新もみられ、非常に良好な林分であった。
- ・引き続き、巡視・モニタリング等により経過を観察していく。



ヤチダモの実生